

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3632919号
(P3632919)

(45) 発行日 平成17年3月30日(2005.3.30)

(24) 登録日 平成17年1月7日(2005.1.7)

(51) Int. Cl.⁷

G06F 17/60

F I

G06F 17/60 400

G06F 17/60 ZEC

G06F 17/60 336

G06F 17/60 402

G06F 17/60 406

請求項の数 2 (全 43 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-579174 (P2001-579174)
 (86) (22) 出願日 平成13年4月25日(2001.4.25)
 (86) 国際出願番号 PCT/JP2001/003568
 (87) 国際公開番号 W02001/082162
 (87) 国際公開日 平成13年11月1日(2001.11.1)
 審査請求日 平成14年2月4日(2002.2.4)
 審判番号 不服2003-13018 (P2003-13018/J1)
 審判請求日 平成15年7月10日(2003.7.10)
 (31) 優先権主張番号 特願2000-125934 (P2000-125934)
 (32) 優先日 平成12年4月26日(2000.4.26)
 (33) 優先権主張国 日本国(JP)
 (31) 優先権主張番号 特願2000-205305 (P2000-205305)
 (32) 優先日 平成12年7月6日(2000.7.6)
 (33) 優先権主張国 日本国(JP)

(73) 特許権者 399068649
 株式会社コムアップ
 東京都千代田区神田須田町一丁目8番4号
 (74) 代理人 100095371
 弁理士 上村 輝之
 (72) 発明者 上原 剛
 茨城県取手市新取手2-3-1
 (72) 発明者 村上 雅春
 東京都江東区豊洲三丁目3番3号 株式会
 社エヌ・ティ・ティ・データ内
 合議体
 審判長 小林 信雄
 審判官 久保田 健
 審判官 山本 穂積

早期審理対象出願

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンピュータ間通信ネットワークを用いて取引及び決済を管理する方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

請求書を発行するサプライヤが用いるサプライヤシステムと、
 請求書を受けるバイヤが用いるバイヤシステムと、
サプライヤの銀行口座を管理するサプライヤ銀行システムと、バイヤの銀行口座を管理するバイヤ銀行システムとを有し、前記バイヤの銀行口座から前記サプライヤの銀行口座への入出金処理を行う銀行システムと、
 前記サプライヤシステム、前記バイヤシステム及び前記銀行システムと通信ネットワークを介して通信可能に接続されたサーバと
 を用いて取引及び決済を管理する方法において、
 前記サーバが、どの請求書であるかを特定するための固有の識別コードが前記サプライヤシステムによって記述された電子請求書を、前記サプライヤシステムから受信するステップと、
 前記サーバが、前記受信した電子請求書をデータベースに登録するステップと、
 前記サーバが、前記データベースに登録された前記電子請求書の内容を示し且つ前記バイヤに前記電子請求書の内容を承認させるためのGUI画面を、前記バイヤシステムに送信して表示させるステップと、
 前記サーバ又はバイヤシステムが、前記バイヤシステムに表示された前記GUI画面上の前記電子請求書の内容を前記バイヤが承認したことに応答して、前記バイヤに承認された前記登録された電子請求書に基づいて、前記登録された電子請求書に記述されている前記

10

20

固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を自動的に作成して前記バイヤ銀行システムに送信するステップと、

前記銀行システムが、前記固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を受けて、前記固有の識別コードを持つ電子請求書の支払いのための入出金処理を行うステップと、

前記バイヤ銀行システムが、前記入出金処理によって前記バイヤの銀行口座から出金した旨を前記サーバに通知するステップと、

前記サプライヤ銀行システムが、前記サプライヤの銀行口座に入金した旨の入出金明細であって、前記固有の識別コードを持つ電子的な入出金明細を、前記サーバに送信するステップと

を有し、それにより、前記サーバをして、前記サプライヤ銀行システムから受信した電子的な入出金明細が持つ前記固有の識別コードによって、支払われた電子請求書がどれであるかを特定することを可能にならしめ、更に、

前記サーバが、前記登録した電子請求書の状態を前記データベースで管理するステップと、

前記サーバが、前記電子請求書の内容を示した前記GUI画面を前記バイヤシステムに送信し表示させたとき、前記データベースで管理されている電子請求書の状態を、開封状態に更新するステップと、

前記サーバが、前記支払い依頼電文が前記バイヤ銀行システムに送信されたとき、又は、前記入出金処理によって前記バイヤの銀行口座から出金した旨が前記バイヤ銀行システムから通知されたとき、前記データベースで管理されている前記電子請求書の状態を、支払い依頼状態に更新するステップと、

前記サーバが、前記データベースで管理されている前記電子請求書の状態を前記サプライヤシステムに通知するステップと、

前記サーバが、カレンダーを表示したカレンダーGUI画面を用意するカレンダーGUI準備ステップと、

前記サーバが、前記カレンダーGUI画面のカレンダー上の、前記電子請求書を受信した日付のスペースに、前記データベースに登録された電子請求書と前記データベースで管理されている該電子請求書の状態とを表すマークを自動的に貼り付ける請求書マーク貼り付けステップと、

前記サーバが、前記電子請求書及びその状態を表すマークが貼り付けられた前記カレンダーGUI画面を、前記バイヤシステムに提供し表示させるカレンダーGUI提供ステップと、

前記サーバが、前記カレンダーに貼り付けられたマークの表示を、該マークが表す電子請求書について前記データベースで管理されている状態の変更に応じて、変更後の状態を表す表示に変更し、且つ、前記サーバが受信した前記入出金明細に含まれた固有の識別コードと同一の識別コードを有する電子請求書を、前記データベースから検索し、前記データベースから検索された電子請求書に対応した、前記カレンダーに貼り付けられたマークを、支払済みを表すマークに変更するマーク変更ステップと
を有したバイヤの取引及び決済を管理する方法。

【請求項2】

請求書を発行するサプライヤが用いるサプライヤシステムと、

請求書を受けるバイヤが用いるバイヤシステムと、

サプライヤの銀行口座を管理するサプライヤ銀行システムと、バイヤの銀行口座を管理するバイヤ銀行システムとを有し、前記バイヤの銀行口座から前記サプライヤの銀行口座への入出金処理を行う銀行システムと、

前記サプライヤシステム、前記バイヤシステム及び前記銀行システムと通信ネットワークを介して通信可能に接続されたサーバと

を備える取引及び決済の管理システムであって、前記バイヤ銀行システムが、電子請求書についての支払い依頼電文であって識別コードを持った支払い依頼電文を受けると、前記銀行システムが、前記電子請求書の支払いのための入出金処理を行い、前記バイヤ銀行シ

10

20

30

40

50

システムが、前記入出金処理によって前記バイヤの銀行口座から出金した旨を前記サーバに通知し、前記サプライヤ銀行システムが、前記識別コードを有する電子的な入出金明細を前記サーバに送信することができるようになっている、前記取引及び決済の管理システムにおける前記サーバにおいて、

どの請求書であるかを特定するための固有の識別コードが前記サプライヤシステムによって記述された電子請求書を、前記サプライヤシステムから受信する手段と、

前記受信した電子請求書をデータベースに登録する手段と、

前記データベースに登録された前記電子請求書の内容を示し且つ前記バイヤに前記電子請求書の内容を承認させるためのG U I画面を、前記バイヤシステムに送信して表示させる手段と、

前記バイヤシステムに表示された前記G U I画面上の前記電子請求書の内容を前記バイヤが承認したことに応答して、前記バイヤに承認された前記登録された電子請求書に基づいて、前記登録された電子請求書に記述されている前記固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を自動的に作成して前記バイヤ銀行システムに送信する手段と、

前記登録した電子請求書の状態を前記データベースで管理する手段と、

前記電子請求書の内容を示した前記G U I画面を前記バイヤシステムに送信し表示させたとき、前記データベースで管理されている電子請求書の状態を、開封状態に更新する手段と、

前記支払い依頼電文が前記バイヤ銀行システムに送信されたとき、又は、前記入出金処理によって前記バイヤの銀行口座から出金した旨が前記バイヤ銀行システムから通知されたとき、前記データベースで管理されている前記電子請求書の状態を、支払い依頼状態に更新する手段と、

前記データベースで管理されている前記電子請求書の状態を前記サプライヤシステムに通知する手段と、

カレンダーを表示したカレンダーG U I画面を用意するカレンダーG U I準備手段と、

前記カレンダーG U I画面のカレンダー上の、前記電子請求書を受信した日付のスペースに、前記データベースに登録された電子請求書と前記データベースで管理されている該電子請求書の状態とを示したマークを自動的に貼り付ける請求書マーク貼り付け手段と、

前記電子請求書及びその状態を表すマークが貼り付けられた前記カレンダーG U I画面を、前記バイヤシステムに提供し表示させるカレンダーG U I提供手段と、

前記カレンダーに貼り付けられたマークの表示を、該マークが表す電子請求書について前記データベースで管理されている状態の変更に応じて、変更後の状態を表す表示に変更し、且つ、前記サーバが受信した前記入出金明細に含まれた固有の識別コードと同一の識別コードを有する電子請求書を、前記データベースから検索し、前記データベースから検索された電子請求書に対応した、前記カレンダーに貼り付けられたマークを、支払済みを表すマークに変更するマーク変更手段と

を有したサーバ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、商業的又は非商業的な取引、それら取引に関わる決済、商業的又は非商業的な広告などに関する情報処理を、それら取引の当事者や銀行などのコンピュータシステムとコンピュータ間通信ネットワークとを用いて自動的に行うための技術に関する。

【0002】

【従来の技術】

商品又はサービスを提供するサプライヤ（会社又は官公庁）のコンピュータシステムと、商品又はサービスを購入するバイヤ（個人又は法人）のコンピュータシステムとの間で、通信ネットワークを通じて電子情報をやり取りし、それにより、サプライヤとバイヤ間で行われた各種取引の情報管理や、それら取引に関する決済（例えば、商品又はサービスの代金支払い、公共料金の支払、又は税金の納付等）を、自動的に実行するシステムが実用

10

20

30

40

50

化されている。

【 0 0 0 3 】

【 発明が解決しようとする課題 】

従来技術によれば、サプライヤからの請求書（情報）のバイヤへの到達、バイヤが支払をするべき時期、及びバイヤの銀行口座における入出金などに関する情報を、一括して自動的に管理するための自動化手段が、バイヤに対して提供されていない。そのため、バイヤは自分自身で、そうした情報を忘れないよう記憶し整理しておく必要がある。

【 0 0 0 4 】

また、サプライヤからバイヤに対して電子メールで取引明細や請求書を送付することが広く行われている。しかし、バイヤにとっては、様々な人から来る多種雑多な電子メールの中から、特定の取引の明細や請求書をいちいち探し出さなければいけないことは面倒である。

10

【 0 0 0 5 】

また、従来技術によれば、バイヤが請求書に対して承認を行うことで自動的にバイヤの銀行口座からサプライヤに金が支払われるというような、請求書の承認と決済処理とのリアルタイム又は適切タイミングでの連動も実現されていない。

【 0 0 0 6 】

一方、サプライヤに対しても、従来技術によれば、バイヤが請求書を見たか否か、バイヤが支払いすべき時期、バイヤが請求書の内容を承認したか否か、バイヤが支払いをしたか否か、及び支払った時期などに関する情報を、リアルタイム又は適切タイミングで自動的に確認する自動化手段が提供されていない。そのため、サプライヤは、多数の取引の情報を管理し整理しキャッシュフローを把握するために、多くの労働力を割かなくてはならない。

20

【 0 0 0 7 】

また、サプライヤは、新聞や雑誌の紙面、電車内や駅のチラシ、ダイレクトメール、インターネットのホームページ等の媒体を通じて、商業的又は非商業的な広告を、不特定多数のバイヤに送っている。しかし、その広告に興味をいただくバイヤの割合はそう高くない。よって、広告は、大きな費用がかかる割に、高い効果を奏することが難しい。

【 0 0 0 8 】

本発明の目的は、バイヤが、そのバイヤの行った様々な商取引及びそれらの決済等に関する諸情報を、バイヤのコンピュータシステムの G U I（グラフィカルユーザインタフェース）画面上で一括して管理できるようにすることにある。

30

【 0 0 0 9 】

本発明の別の目的は、バイヤが、バイヤのコンピュータシステムの G U I 画面上で、サプライヤから送られた請求書に対して承認を行うことで、リアルタイム又は適切タイミングで、その請求書の決済を自動的に行えるようにすることにある。

【 0 0 1 0 】

本発明の更に別の目的は、サプライヤが、そのサプライヤの行った様々な商取引及びそれらの決済等に関する諸情報を、サプライヤのコンピュータシステムの G U I 画面上で一括して管理できるようにして、キャッシュフローを把握の容易化に貢献することにある。

40

【 0 0 1 1 】

本発明のまた別の目的は、サプライヤ又はバイヤの銀行口座を取り扱う金融機関が、そのサプライヤ又はバイヤの行った様々な商取引にかかる決済に関する諸情報を、その金融機関のコンピュータシステムの G U I 画面上で一括して管理できるようにして、決済処理の管理の容易化に貢献することにある。

【 0 0 1 2 】

本発明の更にまた別の目的は、商業的又は非商業的な広告をバイヤに対して、そのバイヤがその広告に興味を持つ可能性の高い適切な時期を選んで、提供できるようにすることにある。

【 0 0 1 3 】

50

【課題を解決するための手段】

本発明に従う方法は、請求書を発行するサプライヤが用いるサプライヤシステムと、請求書を受けるバイヤが用いるバイヤシステムと、サプライヤ及びバイヤの銀行口座を管理し、前記銀行口座の入出金処理を行う銀行システムと、前記サプライヤシステム、前記バイヤシステム及び前記銀行システムと通信ネットワークを介して通信可能に接続されたサーバとを用いて取引及び決済を管理する方法である。この方法は、(1)前記サーバが、どの請求書であるかを特定するための固有の識別コードが前記サプライヤシステムによって記述された電子請求書を、前記サプライヤシステムから受信するステップと、(2)前記サーバが、前記受信した電子請求書をデータベースに登録するステップと、(3)前記サーバが、前記電子請求書の内容を前記バイヤに見せ且つ前記電子請求書に対する支払い要求を前記バイヤに入力させるためのGUI画面を、前記バイヤシステムに送信して表示させるステップと、(4)前記サーバ又はバイヤシステムが、前記バイヤシステムに表示された前記GUI画面に対して前記バイヤから入力された前記電子請求書に対する支払い要求を受けて、前記電子請求書に前記サプライヤシステムによって記述された前記固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を作成して銀行システムに送信するステップと、(5)前記銀行システムが、前記固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を受けて、前記固有の識別コードを持つ電子請求書の支払いのための入出金処理を行って、前記固有の識別コードを持つ電子的な入出金明細を前記サーバ又は前記サプライヤシステムに送信するステップとの(1)～(5)のステップを有し、それにより、前記サーバ又は前記サプライヤをして、前記銀行システムから受信した電子的な入出金明細が持つ前記固有の識別コードによって、支払われた電子請求書がどれであることを特定することを可能にならしめる。

10

20

【0014】

本発明に従うサーバは、以下の取引及び決済の管理システムにおけるサーバである。その取引及び決済の管理システムは、(1)請求書を発行するサプライヤが用いるサプライヤシステムと、(2)請求書を受けるバイヤが用いるバイヤシステムと、(3)サプライヤ及びバイヤの銀行口座を管理し、前記銀行口座の入出金処理を行う銀行システムと、(4)前記サプライヤシステム、前記バイヤシステム及び前記銀行システムと通信ネットワークを介して通信可能に接続されたサーバとの(1)～(4)を備える。前記(3)の銀行システムは、電子請求書についての支払い依頼電文であって識別コードを持った支払い依頼電文を受けると、前記電子請求書の支払いのための入出金処理を行って、前記識別コードを有する電子的な入出金明細を前記サーバ又は前記サプライヤシステムに送信することができるようにしている。この取引及び決済の管理システムにおいて、本発明に従うサーバは、どの請求書であるかを特定するための固有の識別コードが前記サプライヤシステムによって記述された電子請求書を、前記サプライヤシステムから受信する手段と、前記電子請求書の内容を前記バイヤに見せ且つ前記電子請求書に対する支払い要求を入力するためのGUI画面を、前記バイヤシステムに送信して表示させる手段と、前記GUI画面に対して前記バイヤから入力された前記電子請求書に対する支払い要求を受けて、前記電子請求書に前記サプライヤシステムによって記述された前記固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を作成して銀行システムに送信する手段とを備える。

30

【0015】

本発明に従うコンピュータプログラムは、以下の取引及び決済の管理システムにおけるサーバとしてコンピュータを動作させるためのコンピュータプログラムである。その取引及び決済の管理システムは、(1)請求書を発行するサプライヤが用いるサプライヤシステムと、(2)請求書を受けるバイヤが用いるバイヤシステムと、(3)サプライヤ及びバイヤの銀行口座を管理し、前記銀行口座の入出金処理を行う銀行システムと、(4)前記サプライヤシステム、前記バイヤシステム及び前記銀行システムと通信ネットワークを介して通信可能に接続されたサーバとの(1)～(4)を備える。前記(3)の銀行システムは、電子請求書についての支払い依頼電文であって識別コードを持った支払い依頼電文を受けると、前記電子請求書の支払いのための入出金処理を行って、前記識別コードを有する電子的な入出金明細を前記サーバ又は前記サプライヤシステムに送信することができ

40

50

るようになっている。この場合、本発明に従うコンピュータプログラムは、どの請求書であるかを特定するための固有の識別コードが前記サプライヤシステムによって記述された電子請求書を、前記サプライヤシステムから受信するステップと、前記受信した電子請求書をデータベースに登録するステップと、前記電子請求書の内容をパイヤに見せ且つ前記電子請求書に対する支払い要求を入力するためのGUI画面を、前記パイヤシステムに送信して表示させるステップと、前記GUI画面に対して前記パイヤから入力された前記電子請求書に対する支払い要求を受けて、前記電子請求書に前記サプライヤシステムによって記述された前記固有の識別コードを持つ支払い依頼電文を作成して銀行システムに送信するステップとをコンピュータに実行させる。

【0017】

10

本発明において、「請求書」という用語は、請求書だけでなく、請求書ではないが請求金額などの請求内容がそこから読み取れるような文書、例えば、取引明細や計算書や納品書なども含む意味で用いる。請求金額はプラス（パイヤが金を支払う）でもマイナス（パイヤが金を受け取る）でもよい。

【0018】

本発明において、「入出金明細」という用語は、口座に対する入金又は出金の事実とその金額がそこから読み取れるような文書という意味で用いる。

【0019】

本発明において、「パイヤ」という用語は、商品又はサービスを買う主体だけでなく、金銭の移動を伴う何らかの経済的行為を自ら行う主体、及びその経済的行為を他社から受ける対象者をも含む広い意味で用いる。

20

【0020】

本発明において、「サプライヤ」という用語は、商品又はサービスを「パイヤ」に提供する主体だけでなく、金銭の移動を伴う何らかの経済的行為を「パイヤ」に対して自ら行う主体、及び「パイヤ」からその経済的行為を受ける対象者をも含む広い意味で用いる。

【0021】

本発明において、「銀行」という用語は、銀行だけでなく、銀行ではないがサプライヤ又はパイヤの資金移動を扱うことができる組織をも含む広い意味で用いる。本発明の「銀行」が例えば証券会社又は郵便局などを指す場合もあり得る。

【0022】

30

【発明の実施の形態】

図1は、本発明の一実施形態に従う取引及び決済の管理システムの全体的構成を示すブロック図である。

【0023】

図1に示すように、商品又はサービスを購入するパイヤ（個人又は法人）1が使うコンピュータシステムであるパイヤシステム3と、商品又はサービスを提供するサプライヤ（私企業又は官公庁など）5が使用するコンピュータシステムであるサプライヤシステム7が存在する。また、パイヤ1の預金口座を取り扱う金融機関9が使用するコンピュータシステムである銀行システム13と、サプライヤ5の預金口座を取り扱う金融機関11が使用するコンピュータシステムである銀行システム15とが存在する。銀行システム13と15は、銀行間決済システム17を通じて、パイヤ1の預金口座とサプライヤ5の預金口座との間の資金移動（口座振替）などのための通信を行うことができる。パイヤシステム3及びサプライヤシステム7は、それぞれ、例えばインターネットバンキングのようなエレクトロニックバンキングシステムを通じて、銀行システム13と15と通信することができる。

40

【0024】

さらに、図1に示すように、決済管理会社19によって運営されるサーバシステム25が存在する。サーバシステム25の役割は、パイヤ1とサプライヤ5との間で行われた商業的又は非商業的な取引及びそれら取引に係る決済を自動的に管理し処理することである。このサーバシステム25は、インターネット、公衆電話回線網、専用通信ネットワーク又

50

はエレクトロニックバンキングシステム等を通じて、パイヤシステム 1、サプライヤシステム 5 及び銀行システム 13、15 と通信可能である。

【0025】

サーバシステム 25 は、パイヤシステム 3 に対して、例えば WWW サーバとして機能し、カレンダー（月毎又は週毎の全日付の一覧表）を表示した GUI 画面（以下、「カレンダー画面」という）（図 3、4 参照）を提供する。このカレンダー画面は、パイヤ 1 が行った様々な商業的又は非商業的な取引に係る利用明細書又は請求書（以下、「請求書」と総称する）及びそれら取引に係る決済（口座入出金）の情報を、一括して管理し、そして、それら取引の決済の各々をパイヤ 1 の承認によりリアルタイム又は適切タイミングで自動的に実行する機能をもつ。以下の説明では、サーバシステム 25 を、図 1 に示すように、

10

【0026】

カレンダーサーバ 25 は、また、サプライヤ 5 が行った様々な商業的又は非商業的な取引の請求書及びそれら取引に係る決済の情報を、一括して管理し、それによりキャッシュフローの把握を容易にするための機能と GUI 画面（図 10 参照）を、サプライヤシステム 7 に提供する。カレンダーサーバ 25 は、また、金融機関 9 及び 11 がそれぞれ取り扱う銀行口座を用いて決済されることになっている請求書に関する情報を一括して管理するための機能と GUI 画面（図 11 参照）を、銀行システム 13 及び 15 にそれぞれ提供する。

【0027】

20

現実には、多数のパイヤと多数のサプライヤと多数の金融機関が、カレンダーサーバ 25 を利用することができる。しかし、図 1 では、説明を容易にするために、一人のパイヤ 1 と、一つのサプライヤ 5 と、そのパイヤ 1 の一口座を扱う一つの金融機関 9 と、そのサプライヤ 5 の一口座を扱う一つの金融機関 11 だけを、代表的に図示する。

【0028】

パイヤ 1 は、個人でも法人でも良い。本明細書では「パイヤ」という用語を、商品又はサービスを購入する者だけでなく、税金を納付する者、株式などの証券を購入又は売却する者、ローンを借りる者、又はローンを返済する者など、様々な経済行為を行う者を総称する意味で用いる。パイヤ 1 の一例は個人パイヤである。パイヤシステム 3 としては、カレンダーサーバ 25 にアクセスしたり、エレクトロニックバンキングシステムにアクセスしたりすることができるように、インターネット接続機能と WWW ブラウザとを搭載したパーソナルコンピュータ 3a、携帯電話 3b 又はハンドヘルド端末などが利用可能である。

30

【0029】

サプライヤ 5 は、個人でも私企業でも官公庁でもよい。本明細書では「サプライヤ」という用語を、商品又はサービスを販売する者だけでなく、税金を徴収する官庁、各種取引の仲介業者、ローン会社、ファクタリング会社など、パイヤに対して何らかの経済的行為を行う主体を指す意味で用いる。サプライヤの例には、パイヤに商品を販売する小売店やレストラン、パイヤに対し各種の金融サービスを提供する証券会社、保険会社、信販会社（カード会社等）及びローン会社、パイヤから代金を回収するファクタリング会社、パイヤの勤務先である会社又は官公庁、パイヤに通話サービスを提供する電話会社及び携帯電話会社、都市ガスを供給するガス会社、並びに電力を供給する電力会社などがある。サプライヤの例には、さらに、上下水道事業を営む地方公営企業体、国税や地方税や罰金を徴収する行政機関、及び様々な公共サービスを行う諸官公庁（例えば、郵便局等）などもある。

40

【0030】

パイヤ 1 は、最初に、決済管理会社 19 に対し、「決済管理サービス」契約の申し込みを行う。それにより、パイヤシステム 3 をインターネットを介してカレンダーサーバ 25 に接続することができるようになる。その結果、パイヤ 1 は、サプライヤ 5 からの請求書（つまり、取引の明細書又は請求書）及び金融機関 9 からの預金口座の入出金明細を、電子情報の形で一括してカレンダーサーバ 25 からオンラインでパイヤシステム 3 に受信して

50

、バイヤシステム 3 のディスプレイ装置に、それらの情報を貼り付けたカレンダー画面（図 3、4 参照）を表示させることができるようになる。さらに、バイヤシステム 3 に受信された請求書に対する承認をバイヤ 1 がバイヤシステム 3 に入力することで、直ちにその請求書に対する支払い（口座振替）電文が生成されて銀行システム 13 へ送られ、その請求書の決済をリアルタイム又は適切タイミングで実行することができるようになる。バイヤ 1 は決済管理会社 19 に対し、「決済管理サービス」の利用料金を支払う。バイヤ 1 は、上記「決済管理サービス」が適用される特定のサプライヤ 5 や特定の金融機関 9 を指定することが可能である。

【0031】

バイヤ 1 は、バイヤシステム 3 に搭載されている WWW ブラウザを用いて、インターネットを通じて、カレンダーサーバ 25 と通信する。バイヤ 1 の個人識別情報（ID、パスワード等）がバイヤシステム 3 からカレンダーサーバ 25 に送られることにより、カレンダーサーバ 25 は、カレンダーサーバ 25 がもつデータベース内に存在するバイヤ 1 用の格納領域のデータにアクセスすることを、バイヤシステム 3 に許可する。バイヤ 1 用のデータベースには、サプライヤ 5 から受信したバイヤ 1 宛ての請求書や、金融機関 9 から受信したバイヤ 1 の口座の入出金明細が格納されている。カレンダーサーバ 25 は、バイヤ 1 の選択した特定の月又は週のカレンダー画面（図 3、4 参照）を、バイヤシステム 3 の WWW ブラウザに送って、そのカレンダー画面を表示させる。このカレンダー画面（図 3、4 参照）において、サプライヤ 5 からの請求書及び金融機関 9 からの入出金明細をそれぞれ表すマーク（アイコン又は文字列）が、各利用明細書又は請求書の日付（例えば受信日）及び各入出金明細の日付（例えば入出金の発生日）に該当する日付欄に表示される。カレンダーサーバ 25 は、また、バイヤ 1 からの要求に応じて、個々の請求書の詳細内容を表示した画面（図 7 参照）、或いは、バイヤ 1 の預金通帳の内容を表示した画面（図 8 参照）なども、バイヤシステム 3 に送って表示させることができる。バイヤシステム 3 に表示された個々の請求書に対してバイヤ 1 が承認を入力すると、リアルタイムで又は適当タイミングで、その請求書への支払い依頼する口座振込電文が生成されて銀行システム 13 に送られ、銀行システム 13 がその請求書の決済を実行する。

【0032】

サプライヤシステム 7 は、所定の通信ネットワークを通じてカレンダーサーバ 25 と通信することができる。サプライヤシステム 7 は、バイヤ 1 との取引が成立するとリアルタイムで又は適当タイミングで、その取引に係るバイヤ 1 宛ての電子的な請求書をカレンダーサーバ 25 へ送信する。この電子請求書には、顧客（バイヤ）名、請求書番号、顧客（バイヤ）口座番号、請求金額、状態、支払期限、問合せ番号、振込先口座、EDI 情報（この電子請求書の授受に必要な付加的な情報、例えば固有の識別コードなど）等が、所定フォーマットで記述されている。

【0033】

カレンダーサーバ 25 は、サプライヤシステム 7 から受信したバイヤ 1 宛ての電子請求書をデータベースに保管し、そして、その電子請求書について通知（カレンダー画面にマークを貼り付けてバイヤ 1 へ通知すること）、開封（請求書の詳細内容の画面をバイヤ 1 に見せること）、支払い依頼（請求書の支払いのための口座振替処理を行った旨を銀行システム 13 から通知されること（若しくは、請求書の支払いのための口座振替処理を行う旨を銀行システム 13 に依頼（通知）すること）、支払い済み確認（サプライヤの口座に請求金額の入金があった旨を銀行システム 13 から通知されること）などの処理を行う。カレンダーサーバ 25 は、電子請求書について上記通知、開封、支払い依頼、又は支払い済み確認などの処理を行なうと、リアルタイムで又は所定タイミングで、その電子請求書の状態を通知済み、開封済み、支払い依頼中、又は支払い済み等に更新する。

【0034】

サプライヤシステム 7 は、発行期間や状態を指定して電子請求書の検索をカレンダーサーバ 25 に依頼することができる。すると、カレンダーサーバ 25 は、カレンダーサーバ 25 が管理しているサプライヤシステム 7 からの電子請求書の中から、指定された発行期間

10

20

30

40

50

内に発行日が入り且つ指定された状態を現在もっている請求書を検索して、それらを一覧に表示した請求書リスト画面（図10参照）をサプライヤシステム7に送って表示させる。その請求書リスト画面（図10参照）には、各電子請求書の顧客名、請求書番号、顧客口座番号、請求金額、状態、状態更新時、支払期限、問合せ番号、E D I識別情報などが表示される。ここに表示された各電子請求書の「状態」は、各電子請求書の最新の状態（通知済み、開封済み、支払い依頼中、又は支払依頼済み等）を表しており、「状態更新時」はその最新の状態に更新された日を表している。

【0035】

なお、サプライヤシステム7はカレンダーサーバ25に、電子請求書の状態の更新をリアルタイムで自動通知してくれるよう、予め依頼しておくことができる。そのように依頼しておいた場合には、サプライヤシステム7が積極的にカレンダーサーバ25に接続しなくても、カレンダーサーバ25はサプライヤシステム7に電子請求書の状態の更新をリアルタイムで自動的に通知する。いずれにしても、請求書の状態が支払済みになったときには、サプライヤシステム7は、カレンダーサーバ25から、その旨の通知をリアルタイム又は所定のタイミングで受信する。

【0036】

銀行システム13、15は、エレクトロニックバンキングシステムを通じて、カレンダーサーバ25、バイヤシステム3又はサプライヤシステム7などと通信することで、カレンダーサーバ25、バイヤシステム3又はサプライヤシステム7からの依頼に応じて銀行業務を行なうことができる。バイヤ1の預金口座を扱う銀行システム13は、サプライヤ7からバイヤ1への請求書の支払い（口座振替）を依頼する電文を受けると、リアルタイムで又は所定タイミングで、バイヤ1の預金口座から銀行システム15がもつサプライヤ7の預金口座へと請求金額分の金を振り替える処理を、銀行間決済システム17を用いて行う。

【0037】

バイヤ1の預金口座を扱う銀行システム13は、上述したような請求書の支払い又はその他の原因によってそのバイヤ1の預金口座に出金又は入金が発生すると、リアルタイムで又は所定タイミングで、その入金や出金の明細を表した電子的な入出金明細をカレンダーサーバ25に送信する。その入出金明細には、顧客（バイヤ1）名、顧客口座、入出金日付、入出金の金額、科目、摘要、及びE D I情報（この電子入出金明細を授受するに必要な付加情報、例えば、支払った請求書の識別コードなど）が所定フォーマットで記述されている。その入出金明細が請求書の支払い完了を示している場合に、カレンダーサーバ25は、その入出金明細に含まれているE D I情報によって、支払われた請求書がどれであるかを特定することができ、そして、特定した請求書の状態を支払い済みに更新する。

【0038】

サプライヤ5の預金口座を扱う銀行システム15は、発行期間や状態を指定して電子請求書の検索をカレンダーサーバ25に依頼することができる。すると、カレンダーサーバ25は、その銀行システムが扱うサプライヤ5の預金口座（現実には、複数のサプライヤの複数の預金口座を扱っている）を振込先口座に指定している電子請求書であって、指定された発行期間内に発行日が入り且つ指定された状態に現在ある電子請求書を検索し、それらを一覧に表示した請求書リスト画面（図11参照）を銀行システム15に送って表示させる。その請求書リスト画面（図11参照）には、各電子請求書の請求企業（サプライヤ）名、企業コード、顧客（バイヤ）名、顧客口座、請求金額、状態、発行日、及び請求（支払）期限などが表示される。ここに表示された各電子請求書の「状態」は、各電子請求書の最新の状態（通知済み、開封済み、支払い依頼中、又は支払済み等）を表しており、「状態更新時」はその最新の状態に更新された日を表している。

【0039】

カレンダーサーバ25は、データベースを有し、その中にバイヤ1用の格納領域をもつ。バイヤ1用の格納領域には、サプライヤシステム7から受信したバイヤ1宛ての電子請求書、及び銀行システム13から受信したバイヤ1の預金口座の入出情報などが蓄積される

10

20

30

40

50

。電子請求書又は入出金明細を受信すると、カレンダーサーバ25は、上述したカレンダー画面（図3、4）に請求書又は入出金明細を貼り付けてバイヤ1が閲覧できるようにするだけでなく、電子メールを用いてもそれをバイヤ1に通知することもできる。

【0040】

カレンダーサーバ25は、図1に示すように、請求書管理部27と会計管理部29とを有する。請求書管理部27は、サプライヤシステム7及びサプライヤ5の口座を扱う銀行システム15と通信し、そして、主に、サプライヤ5からの電子請求書に関わる情報処理を行なう。会計管理部29は、主に、バイヤシステム3及びバイヤ1の口座を扱う銀行システム13と通信し、そして、主に、バイヤ1の口座の入出金に関わる情報処理を行なう。

【0041】

図2は、請求書管理部27と会計管理部29が行う処理における電子情報の流れを示している。図2を参照して、それらの処理について説明する。それらの処理は、典型的には、カレンダーサーバ25に搭載されたコンピュータプログラムを実行することによって行われる。

【0042】

請求書管理部27が行なう処理には、（1）請求書登録処理、（2）請求書開封及び支払い依頼通知処理、及び（3）決済請求書帳消し処理がある。

【0043】

（1）請求書登録処理

サプライヤシステム7からバイヤ1宛ての電子請求書が発行されると（1-1）、請求書管理部27は、その電子請求書を受信し、未決済の請求書として請求書管理部27のデータベースに登録し（1-2）、そして、その電子請求書の状態や支払い期限などを管理する。請求書管理部27は、また、その電子請求書を会計管理部29へ転送する（1-3）。

【0044】

（2）請求書開封及び支払い依頼通知処理

バイヤ1が或る電子請求の詳細内容を閲覧した（開封した）とき、会計管理部29から請求書管理部27に、開封通知が送られる（6-2）。請求書管理部27は、その開封通知を受信すると、その電子請求書の状態を開封済みに更新する（2-1）。請求書管理部27は、サプライヤシステム7からその電子請求の検索が要求されたとき（又は、自動通知が予め依頼されていた場合には、その電子請求書の状態を開封済みに更新したとき）、その電子請求書の状態（つまり、開封済み）をサプライヤシステム7に知らせる（2-2）。こうして電子請求書をバイヤ1が開封されたことをサプライヤ5に知らせることは、支払う気のないバイヤ1に対してサプライヤ5が法的督促手続きを採るための法的根拠を与える。

【0045】

或る電子請求書の支払いがバイヤ1の口座を扱う銀行システム13に依頼されたとき、会計管理部29から請求書管理部27に、その電子請求書の支払い依頼についての通知が送られる（6-9）。請求書管理部27は、その支払い依頼通知を受信すると、その電子請求書の状態を支払い依頼中に更新する（2-3）。請求書管理部27は、サプライヤシステム7からその電子請求の検索が要求されたとき（又は、自動通知が予め依頼されていた場合には、その電子請求書の状態を支払い依頼中に更新したとき）、その電子請求書の状態（つまり、支払い依頼中）をサプライヤシステム7に知らせる（2-4）。

【0046】

（3）決済請求書帳消し処理

サプライヤ5は、或る電子請求書の状態が支払い依頼中になったことの通知を受けると、銀行システム15に対して、サプライヤ5の預金口座にその請求書に係る請求金額が入金されたかどうか照会するであろう（3-1）（又は、銀行システム15からサプライヤシステム7に、自動的に入金の実事が通知されるであろう）。この照会によって銀行システム15が確認したサプライヤ5の口座への入金明細は、銀行システム15からサプライ

10

20

30

40

50

ヤシステム 7 へ転送されるだけでなく (3 - 2)、請求書管理部 2 7 にも転送される (3 - 3)。請求書管理部 2 7 は、銀行システム 1 5 から入金明細を受け取ると、その入金明細に対応する電子請求書を特定し、その特定した電子請求書の状態を支払い済みに更新することで、その電子請求書を未決済の請求書中から自動的に帳消しし (3 - 4)、そして、その請求書の状態 (支払済み) をサプライヤシステム 7 に通知する。上記支払い済みの通知により、サプライヤ 5 は、決済済みの請求書の帳消しが容易に行なえ、キャッシュフローの把握も容易に行え、商品の発送などの決済後のアクションへ円滑に移行できる。

【 0 0 4 7 】

カレンダーサーバ 2 5 の会計管理部 2 9 が行なう処理には、(4) 入出金明細自動貼り付け処理、(5) 請求書自動貼り付け処理、(6) 請求書開封及び支払い依頼通知処理、(7) 入出金明細自動分類処理、(8) 入出金予定自動設定処理、(9) 決済入出金予定自動帳消し処理、(1 0) 入出金明細自動通知処理、(1 1) 口座電子通帳処理がある。

10

【 0 0 4 8 】

(4) 入出金明細自動貼り付け処理

会計管理部 2 9 は、銀行システム 1 3 からエレクトロニックバンキングシステム 2 1 を通じて送られてきたパイヤ 1 の口座の 入出金情報 を受信し (4-1)、その 入出金情報 に含まれているデータ (取引日、請求金額、支払期限、発行日、EDI 情報、及び摘要など) を会計管理部 2 9 のデータベースに登録する (4-2)。そして、会計管理部 2 9 は、パイヤシステム 3 に各月又は各週のカレンダー画面 (図 3、4 参照) を表示するとき、登録した入出金明細のデータをそのカレンダー画面に貼り付ける (4-3)。パイヤは、そのカレンダー画面から、各月又は各週の自分の口座における 入出金 の実績が把握できる。

20

【 0 0 4 9 】

(5) 請求書自動貼り付け処理

会計管理部 2 9 は、サプライヤシステム 7 から請求書管理部 2 7 を通じて送られてきた電子請求書を受信し (1-1)、その電子請求書から入出金予定に関するデータ (取引日、請求金額、支払期限、発行日、EDI 情報、及び摘要など) を取得し、そして、その取得したデータを会計管理部 2 9 のデータベースに登録する (5-1)。また、会計管理部 2 9 は、その電子請求書をエレクトロニックバンキングシステム 2 1 に転送して、それをエレクトロニックバンキングシステム 2 1 に登録させる (5-4)。そして、会計管理部 2 9 は、パイヤシステム 3 に各月又は各週のカレンダー画面 (図 3、4 参照) を表示するとき、登録した電子請求書の入出金予定に関するデータをそのカレンダー画面に貼り付ける (5-2)。パイヤは、そのカレンダー画面から、各月又は各週の自分の口座における入出金の予定が把握できる。そのカレンダー画面 (図 3、4 参照) には、電子請求書に基づく入出金予定に関するデータと、上述した入出金明細に基づく 入出金実績 に関するデータとが共に表示される。よって、パイヤは、様々な請求書とそれに対する支払い手続きとを一括して管理することができるようになる。

30

【 0 0 5 0 】

また、電子請求書が会計管理部 2 9 に到達すると (5 - 1)、会計管理部 2 9 は、速やかに、その到達をパイヤシステム 3 に通知する (5 - 3)。さらに、会計管理部 2 9 は、その電子請求書をエレクトロニックバンキングシステム 2 1 に転送し、エレクトロニックバンキングシステム 2 1 はその電子請求書を登録する (5 - 4)。

40

【 0 0 5 1 】

(6) 請求書開封及び支払い依頼通知処理

パイヤシステム 3 から或る電子請求書の閲覧を要求されると、会計管理部 2 9 は、エレクトロニックバンキングシステム 2 1 に登録されている電子請求書の詳細内容を示した画面 (図 7 参照) をパイヤシステム 3 に送る (6 - 1)。これにより、パイヤはその電子請求書を開封したことになり、そして、会計管理部 2 9 は、その開封を請求書管理部 2 5 にリアルタイムで通知する (6 - 2)。その請求書の開封は、前述したように、請求書管理部 2 7 からサプライヤシステム 7 に通知される (2 - 1、2 - 2)。

【 0 0 5 2 】

50

また、パイヤシステム 3 において或る電子請求書がパイヤにより承認されると(6-3)、その請求書の支払のための口座振替電文が自動生成されて(6-4)、その口座振替電文がパイヤの口座を扱う銀行システム 13 に送られる(6-5)。銀行システム 13 は、その口座振替電文を受けて口座振替処理を行ない(6-6)、そして、その口座振替処理にてパイヤ 1 の口座から請求金額を出金したことを示す出金明細を会計管理部 29 へ送る(6-7)。会計管理部 29 は、その出金明細を会計管理部 29 のデータベースに登録し(6-8)、そして、その請求書の支払い依頼についての通知を請求書管理部 27 へ送る(6-9)。その請求書の支払い依頼通知は、前述したように、請求書管理部 27 からサブライヤシステム 7 に送られる(2-3、2-4)。

【0053】

10

上記の登録された出金明細(6-8)は、前述の入出金情報自動貼り付け処理によって、カレンダー画面に貼り付けられてパイヤシステム 3 に表示される(5-2)。

【0054】

(7) 入出金明細自動分類処理

会計管理部 29 は、会計管理部 29 のデータベースから、過去 1 か月分又は過去 1 週間分の入出金明細を読み込み、それらの入出金明細に含まれている任意の項目(例えば、科目、摘要又は EDI 情報など)に基づいて、それらの入出金明細を自動的に分類し、分類された入出金明細をパイヤシステム 3 に表示する。

【0055】

(8) 入出金予定自動設定処理

20

会計管理部 29 は、上記の入出金明細自動分類処理で分類された入出金明細に含まれている様々な項目(入出金日付、金額、科目、摘要及び EDI 情報など)を用いて、今後(翌月以降)の入出金の予定を自動的に(又は、パイヤの手入力による情報補完を伴って半自動的に)設定する。そして、会計管理部 29 は、設定された翌月以降の入出金の予定を会計管理部 29 のデータベースに登録し、翌月以降のカレンダー画面をパイヤシステム 3 に表示するときに、そのカレンダー画面にその翌月以降の入出金の予定を貼り付ける。これにより、電気料金や電話料金の引き落としのように毎月決まった日に行われる入出金の予定が、過去の実績に基づいて、カレンダー画面に自動的に設定される。

【0056】

なお、パイヤの完全な手入力によって将来の入出金予定を設定することもできる。

30

【0057】

(9) 決済入出金予定自動帳消し処理

会計管理部 29 は、入出金明細を銀行システム 13 又は 15 からエレクトロニックバンキングシステム 21 を通じて受信すると、受信した入出金明細(入出金日付、科目、摘要及び EDI 情報など)に対応する入出金予定(前述の請求書自動貼り付け処理にて請求書に基づいて登録された入出金予定、又は前述の入出金予定自動設定処理で過去の入出金明細に基づいて登録された入出金予定)を会計管理部 29 のデータベースから検索する。そして、対応した入出金予定が見つければ、会計管理部 29 は、その対応した入出金予定の状態を支払済みに更新することで、その入出金予定を自動的に帳消しする。

【0058】

40

(10) 入出金明細自動通知処理

上記決済入出金予定自動帳消し処理によって入出金予定の帳消しが行われたとき、会計管理部 29 は、そのことをパイヤシステム 3 に自動的に通知する。入出金予定に対応する入出金明細が予定期日を過ぎても来ない場合、或るいは、予期せぬ入出金明細(どの入出金予定にも対応しない入出金明細)が来た場合にも、会計管理部 29 は、そのことをパイヤシステム 3 に自動的に通知する。上記の自動通知を行うか否か、及びどのような入出金明細に来た場合に上記の自動通知を行うかなどの条件を、パイヤシステム 3 に表示された画面上でパイヤが指定することができる。

【0059】

(11) 口座電子通帳処理

50

会計管理部 29 は、会計管理部 29 のデータベースからバイヤの口座の入出金明細を読み込み、それらの入出金明細を入出金日付の順に並べて一覧に表示した口座電子通帳画面（図 8 参照）を作成し、そして、その口座電子通帳画面をバイヤシステム 3 に送って表示させる。バイヤシステム 3 では、その口座電子通帳画面の所定形式のデータファイルをダウンロードして、会計アプリケーションプログラムに取り込むことができる。

【0060】

以下では、更に具体的に、この実施形態に係るシステムの機能及び動作を説明する。

【0061】

図 3 は、カレンダーサーバ 25 がバイヤシステム 3 に提供する月毎のカレンダー画面の一例を示す。

10

【0062】

図 3 に示すように、カレンダー画面は、副ウィンドウ 35 と、メインウィンドウ 37 とに区分けされる。

【0063】

副ウィンドウ 35 には、「今週へ」、「予定入力」、「月表示」、「週表示」、「日表示」、「請求書リスト」及び「電子通帳表示」等の各メニューを備えるメニュー領域 35a と、キーワード検索を行うとき用いられる検索領域 35b と、翌月のカレンダー画面が表示される領域 35c と、「今月に戻る」メニュー 35d とが設定されている。

【0064】

メインウィンドウ 37 には、バイヤの指定した月の全ての日付のスペースが配列されたカレンダーが表示され、このカレンダーには、サプライヤシステム 7 から発行されたバイヤ宛ての請求書、銀行システム 13 から送られたバイヤ 1 の口座の入出金明細、及びバイヤ 1 の口座の過去の入出金実績から自動作成された入出金予定を表したマーク（アイコンと文字列）が表示されている。

20

【0065】

図 3 において、例えば「C 損保」、「XY ショップ」及び「Z 企業」というマークは、それぞれ、C 損保からの請求書、XY ショップからの請求書及び Z 企業からの請求書を表しており、その請求書がカレンダーサーバ 25 に受信された日付のスペースに貼り付けられている。「C 損保」及び「XY ショップ」のマークの先頭のアイコン（四角枠内に縦ライン）は、例えば、まだ支払いが行われていないことを示しており、「Z 企業」のマークの先頭のアイコン（四角枠内に X）は、例えば、支払い依頼中又は支払済みであることを示している。

30

【0066】

また、図 3 において、「振込み」というマークは、或る請求書（例えば、Z 企業からの請求書）に対して支払い（口座振替）を行ったことを示しており、そのアイコン（四角枠内にマイナス）は出金であることを意味している。このマークは、その支払い（口座振替）を行った日付のスペースに貼り付けられている。この「振込み」のマークに、更に、どの請求書に対応するものかを示す追加のマークを加えても良い。

【0067】

また、図 3 において、例えば「電気料金」、「水道料金」、「携帯電話サ - ビス料金」、「電話料金」及び「ガス料金」というマークは、それぞれ、その料金を支払うことになっているという出金予定又は支払ったという出金実績を表している。これらのマークのアイコン（四角枠内にマイナス）は、出金であることを意味している。また、図 3 において、例えば「XX カード」及び「OO ローン」というマークは、それぞれ、XX カード会社及び OO ローン会社へカード利用代金及びローン返済金を支払うことになっているという出金予定又は支払ったという出金実績を表している。これらの出金予定又は出金明細のマークは、出金の行われる予定日付又は出金が行われた日付のスペースに貼り付けられている。これらの出金予定又は出金実績のマークのアイコン（四角枠内にマイナス）は、出金であることを意味している。アイコン又は文字列の色又は形等を違えることで、出金予定と出金実績とを区別できるようにしてもよい。

40

50

【0068】

また、図3において、「給与」というマークは、給与が入金されることになっているという入金予定又は入金されたという入金実績を表している。この入金予定又は入金実績のマークのアイコン（四角枠内にプラス）は、入金であることを意味している。この入金のマークは、その入金が行われることになっている予定の日付又はその入金が行われた日付のスペースに貼り付けられている。アイコン又は文字列の色又は形等を違えることで、入金予定と入金実績とを区別できるようにしてもよい。

【0069】

図4は、パイヤシステム3に表示される週毎のカレンダー画面の一例を示す。

【0070】

図4に示した週毎のカレンダー画面は、図3に示した月毎のカレンダー画面のメニュー領域35a中の「今週へ」及び/又は「週表示」をポインティングデバイスでクリックすることにより、表示することができる。図4に示すように、週毎のカレンダー画面のメインウィンドウ37には、パイヤが指定した週のカレンダーが表示され、そのカレンダーの各日付のスペースは、曜日/日付スペース37aと、入出金予定・実績スペース37aとをもつ。各日付の入出金予定・実績スペース37bには、その日付に受信された請求書、その日付に行われる予定の入出金予定又はその日付に行われた入出金実績を表したアイコン及び文字列が表示される。

【0071】

図5は、パイヤシステム3に表示される日毎のカレンダー画面の一例を示す。

【0072】

図5に示す日毎のカレンダー画面は、図3又は図4に示したカレンダー画面のメニュー領域35a内の「日表示」メニューをポインティングデバイスでクリックすることで、表示することができる。図5に示すように、日毎のカレンダー画面のメインウィンドウ37には、パイヤの指定した日に行われた入出金の明細と、その日に受信された請求書の概要とが表示される。表示された請求書について、パイヤが「明細」ボタンをクリックすると、その請求書の詳細内容が表示され、これにより、パイヤが請求書を開封したことになり、カレンダーサーバ25で管理されているその請求書の状態は開封済みに更新される。表示された請求書（未決済の請求書のみ）について、パイヤが「支払い」ボタンをクリックすると、パイヤがその請求書を承認したことになり、その請求書に支払うための口座振替電文が自動作成されて銀行システム13に送られ、口座振替処理が自動的に行われる。

【0073】

図6は、パイヤシステム3に表示される請求書リスト画面の一例を示す。

【0074】

図6に示す請求書リスト画面は、図3、図4又は図5に示した画面のメニュー領域35a内の「請求書リスト」メニューをポインティングデバイスでクリックすることで、表示することができる。図6に示すように、請求書リスト画面のメインウィンドウ37には、パイヤの指定した月に受信された全ての請求書の概要のリストが表示される。表示された請求書について、パイヤが「明細」ボタンをクリックすると、その請求書の詳細内容が表示され、これにより、パイヤが請求書を開封したことになり、カレンダーサーバ25で管理されているその請求書の状態は開封済みに更新される。表示された請求書（未決済の請求書のみ）について、パイヤが「支払い」ボタンをクリックすると、パイヤがその請求書を承認したことになり、その請求書に支払うための口座振替電文が自動作成されて銀行システム13に送られ、口座振替処理が自動的に行われる。

【0075】

図7は、パイヤシステム3に表示される請求書明細画面の一例を示す。

【0076】

図7に示す請求書明細画面は、図5又は図6に示す画面で、或る請求書について「明細」ボタンをポインティングデバイスでクリックすることで、表示することができる。この画面には、請求書の詳細な情報が表示される。この請求書明細画面が表示されると、パイヤ

10

20

30

40

50

がその請求書を開封したことになり、カレンダーサーバ25で管理されているその請求書の状態は開封済みに更新される。表示された請求書（未決済の請求書のみ）について、パイヤが「支払い」ボタン449をクリックすると、パイヤがその請求書を承認したことになり、その請求書に支払うための口座振替電文が自動作成されて銀行システム13に送られ、口座振替処理が自動的に行われる。

【0077】

図8は、パイヤシステム3に表示される口座電子通帳画面の一例を示す。

【0078】

図8に示した電子通帳画面は、図3～図6に示した画面のメニュー領域35a内の「電子通帳表示」メニューをポインティングデバイスでクリックすることで、表示することができる。図8に示すように、電子通帳画面には、パイヤが指定した期間に行われたパイヤの預金口座の入出金明細（入出金日付、科目、支払い金額、入金金額、差引残高、備考など）が、入出金日付の順で並んで表示される。要するに、預金通帳の記載内容と同じものが表示される。備考欄63には、予め設定されていた対応の入出金予定と実際の入出金実績とが相違した場合に、その相違が表示される。例えば、図8の例では、携帯電話料金について予定と実績との間に金額の相違があったため、「予定金額相違」と表示されている。「予定金額相違」をクリックすると、ボックス65が開き、そこに、その相違についてより詳細な説明が表示される。

【0079】

図9は、パイヤシステム3に表示される入出金予定設定画面の一例を示す。

【0080】

図9に示す入出金予定設定画面は、図3～図6に示した画面のメニュー領域35a内の「予定入力」メニューをポインティングデバイスでクリックし、そして、カレンダーサーバ25が過去の入出金明細に基づいて自動作成した入出金予定の中から任意のものをパイヤが選ぶ（又は、新規予定を選択する）ことで、表示することができる。図9に示した入出金予定設定画面は、既に自動設定されている携帯電話料金の出金予定を選択した場合の例である。図9に示した入出金予定設定画面には、過去の携帯電話料金の出金実績からカレンダーサーバ25が自動的に設定した出金予定のデータが科目名39、取引種別41、科目グループ43、取引日（入出金予定日）45、金額47などの欄に自動的に表示される。パイヤは、これら自動的に設定された事項に手動で変更することもできる。

【0081】

自動通知49の欄では、この画面で設定した入出金予定に関してカレンダーサーバ25からパイヤシステム3へ自動通知を行って欲しい場合に、その自動通知を行ための条件をパイヤが設定することができる。すなわち、事前通知49aの欄で「する」を選び、且つ「当日」、「前日」又は「2日前」を選べば、この入出金予定の取引日の当日、前日又は2日前に、カレンダーサーバ25からパイヤシステム3へこの入出金予定についての自動通知が行われる。また、事後通知49bの欄で、「する」を選び、且つ「予定取引の成立」の「金額が一致した時に通知する」又は「金が不一致した時に通知する」を選べば、この入出金予定に対応する入出金情報が銀行システム13から送られてきた場合であって、その金額が予定と一致した場合又は一致しなかった場合に、カレンダーサーバ25からパイヤシステム3へその金額の一致又は不一致についての自動通知が行われる。（金額が不一致の場合、図8に示したように、電子通帳画面にもその旨が表示される。）また、事後通知49bの欄で、「する」を選び、且つ「予定取引の不成立」の「入出金明細金額と現在の残高を表示する」又は「予定取引を通知する」を選べば、この入出金予定に対応する入出金がパイヤ口座の残高不足などの原因で実行できなかった場合に、カレンダーサーバ25からパイヤシステム3へ選択された事項についての自動通知が行われる。また、事後通知49bの欄で、「する」を選び、且つ「予定にない取引が存在した時に通知する」を選べば、どの入出金予定にも対応しない入出金情報が銀行システムから送られてきたときに、カレンダーサーバ25からパイヤシステム3へその入出金明細についての自動通知が行われる。

10

20

30

40

50

【 0 0 8 2 】

図 1 0 は、カレンダーサーバ 2 5 がサプライヤシステム 7 に提供する請求書リスト画面の一例を示す。

【 0 0 8 3 】

サプライヤシステム 7 が、発行期間や状態を指定して電子請求書の検索をカレンダーサーバ 2 5 に依頼すると、カレンダーサーバ 2 5 は、カレンダーサーバ 2 5 が管理しているサプライヤシステム 7 からの電子請求書の中から、指定された発行期間内に発行日が入り且つ指定された状態を現在もっている請求書を検索して、それらを一覧に表示した図 1 0 に示したような請求書リスト画面をサプライヤシステム 7 に送って表示させる。図 1 0 に示した請求書リスト画面には、各電子請求書の顧客名、請求書番号、顧客口座番号、請求金額、状態、状態更新時、支払期限、問合せ番号、E D I 識別情報などが表示される。サプライヤは、各電子請求書の最新の状態（通知済み、開封済み、支払い依頼中、又は支払依頼済み等）を知ることができる。この画面において、サプライヤが各請求書（まだ支払い依頼済みの状態になっていない請求書のみ）の取消ボックス 4 1 にチェックマークを入れて、「取消処理」ボタン 4 2 をポインティングデバイスでクリックすると、カレンダーサーバ 2 5 はその請求書を取り消す。

10

【 0 0 8 4 】

図 1 1 は、カレンダーサーバ 2 5 が銀行システム 1 3 又は 1 5 に提供する請求書リスト画面の一例を示す。

【 0 0 8 5 】

銀行システム 1 3 又は 1 5 が発行期間や状態を指定して電子請求書の検索をカレンダーサーバ 2 5 に依頼すると、カレンダーサーバ 2 5 は、その銀行システム 1 3 又は 1 5 が扱う預金口座を入金先口座に指定している電子請求書であって、指定された発行期間内に発行日が入り且つ指定された状態に現在ある電子請求書を検索し、それらを一覧に表示した図 1 1 に示すような請求書リスト画面を銀行システム 1 3 又は 1 5 に送って表示させる。図 1 1 に示す請求書リスト画面には、各電子請求書の請求企業（サプライヤ）名、企業コード、顧客（バイヤ）名、顧客口座、請求金額、状態、発行日、及び請求（支払）期限などが表示される。金融機関は、各電子請求書の最新の状態（通知済み、開封済み、支払い依頼中、又は支払済み等）を知ることができる。

20

【 0 0 8 6 】

図 1 2 は、この実施形態に係るシステムの全体の概略的な処理の流れを示す。

30

【 0 0 8 7 】

図 1 2 において、銀行システム 1 3 からの入出金明細は、カレンダーサーバ 2 5 に送られ、カレンダーサーバ 2 5 のデータベースに登録される（ステップ S 7 1）。次に、カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 からの口座取引内容に関する照会依頼を受信すると、今までに受信した入出金明細及び請求書が貼り付けられたカレンダー画面（図 3、図 4 参照）をバイヤシステム 3 に送って表示させ、そのカレンダー画面へのバイヤシステム 3 のアクセスを受け付ける（ステップ S 7 2）。

【 0 0 8 8 】

サプライヤシステム 7 からのバイヤ 1 に対する請求書は、通信ネットワークを通じてカレンダーサーバ 2 5 に送られる。カレンダーサーバ 2 5 は、請求書から入出金予定のデータを取得してその入出金予定データをデータベースに登録し（ステップ S 7 3）、また、その請求書をエレクトロニックバンキングシステムに転送する。カレンダーサーバ 2 5 は、サプライヤシステム 7 から請求書が送信された旨をバイヤシステム 3 に通知する（ステップ S 7 4）。

40

【 0 0 8 9 】

バイヤシステム 3 から特定の請求書の内容に関する照会の依頼が送信されると（ステップ S 7 5）、カレンダーサーバ 2 5 はエレクトロニックバンキングシステムに登録されている請求書の詳細内容を表した請求書明細画面をバイヤシステム 3 へ送って表示させる。これはバイヤ 1 による請求書の開封を意味する。カレンダーサーバ 2 5 は、サプライヤシ

50

テム 7 に対し、その請求書がバイヤ 1 によって開封された旨を通知する（ステップ S 7 6）。

【0090】

次に、バイヤシステム 3 の表示画面上でその請求書をバイヤ 1 が承認すると、その請求書に対する支払い依頼電文が自動生成されエレクトロニックバンキングシステムを通じて銀行システム 1 3 に送られて、バイヤ 1 の口座からサプライヤ 5 の口座への請求金額の振替手続が銀行システム 1 3 に要求される。これにより、銀行システム 1 3、1 5 間での銀行間決済システム 1 7 を通じた口座振替手続が実行される（ステップ S 7 7）。そして、銀行システム 1 3 からカレンダーサーバ 2 5 に対し出金明細が送信され（ステップ S 7 8）、これに基づき、カレンダーサーバ 2 5 からサプライヤシステム 7 に対し、支払い依頼通知が送信される（ステップ S 7 9）。 10

【0091】

次に、サプライヤシステム 7 からサプライヤ口座の入出金明細に関する照会が銀行システム 1 5 に送信されると、銀行システム 1 5 はサプライヤ口座の入出金明細を、サプライヤシステム 7 及びカレンダーサーバ 2 5 に送信する（ステップ S 8 0）。それら入出金明細を受信すると、サプライヤシステム 7 及びカレンダーサーバ 2 5 は、それぞれ、既述のように、受信した入出金明細に基づいて、決済された請求書の帳消しを実行する（ステップ S 8 1）。

【0092】

図 1 3 は、カレンダーサーバ 2 5 が行う前述の（7）入出金明細自動分類処理と（8）入出金予定自動設定処理と（9）入出金予定自動帳消し処理と（10）入出金明細自動通知と（11）口座電子通帳処理の概略的な流れを示している。 20

【0093】

図 1 3 において、バイヤシステム 3 から入出金明細の自動分類の要求があると、カレンダーサーバ 2 5 は、データベースからバイヤの過去の入出金明細を抽出し分類し（ステップ S 8 2）、分類結果に基づき将来の入出金予定を決定し、それら入出金予定を、翌月以降のカレンダー画面に自動展開する（ステップ S 8 3）。次に、銀行システム 1 3 から、バイヤ口座の入出金明細が送信されると（ステップ S 8 4）、カレンダーサーバ 2 5 は、受信した入出金明細と対応する入出金予定をデータベースから探し出し、見つかった入出金予定を帳消しするとともに（ステップ S 8 5）、そのことをバイヤシステム 3 に自動通知する（ステップ S 8 6）。 30

【0094】

また、バイヤシステム 3 からの電子通帳表示の依頼を受信すると、カレンダーサーバ 2 5 はデータベースからバイヤ口座の入出金明細を読み出し（ステップ S 8 7）、それらを電子通帳画面（図 8 参照）に記載し、その電子通帳画面をバイヤシステム 3 へ送信し表示させる（ステップ S 8 8）。また、バイヤシステム 3 から入出金明細のダウンロードの依頼を受信すると（ステップ S 8 9）、カレンダーサーバ 2 5 はデータベースからバイヤ口座の入出金明細を読み出し、それらを所定形式のファイルにしてバイヤシステム 3 へ送る（ステップ S 9 0）。 40

【0095】

図 1 4 は、図 1 3 に示した全体処理中の一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う（4）入出金明細自動貼付け処理の流れを示す。

【0096】

図 1 4 において、銀行システム 1 3 からのバイヤ口座の入出金明細を受信すると、カレンダーサーバ 2 5 は、それをデータベースに保存する（ステップ S 9 1）。次に、バイヤシステム 3 から或る月又は週のカレンダー画面の表示依頼を受信すると（ステップ S 9 2）、その月又は週の入出金明細をデータベースから読み出し（ステップ S 9 3）、その月又は週のカレンダー画面に貼付ける（ステップ S 9 4）。（さらに、カレンダーサーバ 2 5 は、図 1 5 に示すように、その月又は週に受信した請求書もそのカレンダー画面に貼り付ける。）そして、カレンダーサーバ 2 5 は、そのカレンダー画面（図 3、4 参照）をバイヤ 50

システム 3 に送信し表示させる（ステップ S 9 5）。

【 0 0 9 7 】

図 1 5 は、図 1 3 に示した全体処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う（ 1 ）請求書登録処理及び（ 5 ）請求書自動貼付け処理の流れを示す。

【 0 0 9 8 】

図 1 5 において、サプライヤシステム 7 からのパイヤ宛ての請求書を受信すると、カレンダーサーバ 2 5 は、その請求書から入出金予定データを取得してデータベースに保存する（ステップ S 9 6）。次に、カレンダーサーバ 2 5 は、その請求書を受信した旨をパイヤシステム 3 に通知する（ステップ S 9 7）。

【 0 0 9 9 】

パイヤシステム 3 から或る月又は週のカレンダーの表示依頼を受信すると（ステップ S 9 8）、カレンダーサーバ 2 5 は、その月又は週に受信した請求書に基づく入出金予定データをデータベースから読出し（ステップ S 9 9）、その月又は週のカレンダー画面に貼付ける（ステップ S 1 0 0）。（さらに、カレンダーサーバ 2 5 は、図 1 4 に示したように、その月又は週の入出金明細もそのカレンダー画面に貼り付ける。）次に、カレンダーサーバ 2 5 は、そのカレンダー画面（図 3、4）をパイヤシステム 3 に送信し表示させる（ステップ S 1 0 1）。

【 0 1 0 0 】

図 1 6 は、図 1 3 に示した全体処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う（ 2 ）及び（ 6 ）請求書開封及び支払い依頼通知処理、並びに（ 3 ）決済請求書帳消し処理の流れを示す。

【 0 1 0 1 】

図 1 6 において、サプライヤシステム 7 からのパイヤ宛ての請求書を受信すると、カレンダーサーバ 2 5 は、その請求書から入出金予定データを取得してデータベースに保存する（ステップ S 1 0 2）。また、カレンダーサーバ 2 5 は、その請求書をエレクトロニックバンキングシステムへ転送する（ステップ S 1 0 2 - 2）。次に、カレンダーサーバ 2 5 は、その請求書を受信した旨の通知をパイヤシステム 3 に送る（ステップ S 1 0 3）。この通知には、入金口座情報、金額情報、E D I 情報などが含まれる。

【 0 1 0 2 】

パイヤシステム 3 から請求書の内容の確認が要求されると、エレクトロニックバンキングシステムに保存されている請求書の詳細内容がパイヤシステム 3 に送られて表示され、そして、その請求書の内容の確認の通知をカレンダーサーバ 2 5 が受ける（ステップ S 1 0 4）。すると、カレンダーサーバ 2 5 は、サプライヤシステム 7 に対し、請求書の開封の通知を送る（ステップ S 1 0 5）。

【 0 1 0 3 】

また、パイヤ 1 が請求書の承認をパイヤシステム 3 に入力すると、パイヤシステム 3 から銀行システム 1 3 へ支払い（口座振替）電文が送信され（ステップ S 1 0 6）、そして、銀行システム 1 3 は銀行間決済システム 1 7 を用いてパイヤ口座からサプライヤ口座への振替処理を行なう（ステップ S 1 0 7）（なお、ステップ S 1 0 6 及び S 1 0 7 の処理はカレンダーサーバ 2 5 を介して行われるようにしても良い）。銀行システム 1 3 はこの口座振替におけるパイヤ口座の出金明細をカレンダーサーバ 2 5 に送信する（ステップ S 1 0 8）。カレンダーサーバ 2 5 は、その出金明細を受信すると、その請求書の状態を支払い依頼中に変更し、そのことをサプライヤシステム 7 とパイヤシステム 3 に通知する（パイヤシステム 3 では、カレンダー画面上のその請求書のマークに、支払い依頼中を示すアイコンが付加される）（ステップ S 1 0 9）。

【 0 1 0 4 】

サプライヤシステム 7 から銀行システム 1 5 に対して或る請求書の支払いに係るサプライヤ口座への入金明細の確認が要求されると、銀行システム 1 5 は、その入金明細をサプライヤシステム 7 及びカレンダーサーバ 2 5 に送る（ステップ S 1 1 0）。すると、その銀行システム 1 5 からの入金明細に基づいて、カレンダーサーバ 2 5 はその決済された請求

10

20

30

40

50

書を帳消しし（ステップS 1 1 1）、サプライヤシステム7もその決済された請求書を帳消しする（ステップS 1 1 2）。

【0105】

図17は、図14に示した処理中の一部分である、カレンダーサーバ25が行う（7）入出金明細自動分類処理及び（8）入出金予定自動設定処理の流れを示す。

【0106】

図17において、バイヤシステム3からバイヤが指定した過去の期間（1ヶ月分又は数ヶ月分）の入出金明細の自動分類依頼を受信すると、カレンダーサーバ25は、データベース内のバイヤ口座の上記指定された過去期間の入出金明細を科目、取引種別及び取引日などの項目に基づいて分類し、分類された入出金明細に基づいて、将来の入出金予定を決定し、各入出金予定について図9に示したような入出金予定設定画面を生成し（ステップS 1 3 1）、そして、その入出金予定設定画面をバイヤシステム3に送って表示させる（ステップS 1 3 1 - 2）。

10

【0107】

バイヤは、その入出金予定設定画面上で、必要に応じて入出金予定の内容を変更したり、或るいは、必要に応じて自動通知の設定を行ったりし（ステップS 1 3 1 - 3）、そして、バイヤによって確定された入出金予定がバイヤシステム3からカレンダーサーバ25に送られる（ステップS 1 3 1 - 4）。

【0108】

カレンダーサーバ25は、確定された入出金予定を当月及び翌月のカレンダー画面（図3、図4）にそれぞれ貼り付け（ステップS 1 3 2）。カレンダーサーバ25は、その当月又は翌月のカレンダー画面を、バイヤシステム3に送信する（ステップS 1 3 3）。

20

【0109】

図18は、図14に示した処理中の一部分である、カレンダーサーバ25が行う（9）入出金予定帳消し処理及び（10）入出金明細自動通知処理の流れを示す。

【0110】

図18において、銀行システム13からのバイヤ口座の入出金明細を受信すると、カレンダーサーバ25は、それをデータベースに保存する（ステップS 1 3 4）。次に、カレンダーサーバ25は、受信した入出金明細に対応する入出金予定をデータベースから探し出し、見つかった対応する入出金予定を帳消しすると共に、その入出金予定に対応する請求書の状態を支払依頼中に変更する（ステップS 1 3 5）。そして、カレンダーサーバ25は、ステップS 1 3 5の結果をバイヤシステム3に自動通知する（ステップS 1 3 6）。

30

【0111】

図19は、図14に示した処理中の一部分である、カレンダーサーバ25が行う（11）口座電子通帳処理の流れを示す。

【0112】

図19において、バイヤ1がバイヤシステム3からカレンダーサーバ25に対し、口座電子通帳の表示の依頼を行うと（ステップS 2 2 1）、カレンダーサーバ25は、データベースからバイヤ口座の入出金明細を読み出して（ステップS 2 2 2）、それら入出金明細を図8に示したように電子通帳画面に日付順に記載し、その電子通帳画面をバイヤシステム3に送信する（ステップS 2 2 3）。

40

【0113】

また、バイヤシステム3からの入出金明細のダウンロードの要求を受信すると（ステップS 2 2 4）、カレンダーサーバ25は、データベースからバイヤ口座の入出金明細情報を読み出し所定形式のファイルにしてバイヤシステム3にダウンロードする（ステップS 2 2 5）。この入出金明細のファイルを受信すると、バイヤシステム3は、その入出金明細のファイルを、バイヤシステム3内の家計簿アプリケーションソフトウェア等に取り込むことができる（ステップS 2 2 6）。

【0114】

以上、本実施形態に係るシステムの動作を説明した。上述した動作は、サプライヤがどの

50

ような会社又は官庁であっても、基本的に適用できる。しかし、サプライヤが証券会社、ローン会社或るいはファクタリング会社である場合には、上記とは若干異なる以下のような動作を行うこともできる。

【0115】

図20は、サプライヤが証券会社である場合に、この実施形態のシステムが行うことができる、別の全体動作の概略的流れを示す。

【0116】

図20において、バイヤからのサプライヤ（証券会社）システム7に対して株券又は公社債等の証券の売買注文が（ダイレクトに又はカレンダーサーバ25を通じて）入ると、カレンダーサーバ25は、その証券売買に係る請求書を証券会社システム7から受信し、その請求書に基づく入出金予定データをデータベースに保存する（ステップS137）。また、カレンダーサーバ25は、その請求書をエレクトロニックバンキングシステムに登録する。続いて、カレンダーサーバ25はバイヤシステム3にその請求書の内容を通知する（ステップS138）。バイヤシステム3からその請求書の内容を確認し了承した旨の通知を受信すると、カレンダーサーバ25は、銀行システム13に対し、バイヤ口座から証券会社口座への請求金額の振替を依頼する電文を送り（ステップS139）、同時に、バイヤ1により請求書が開封された旨の通知を証券会社システム7に送信する（ステップS141）。

10

【0117】

上記振替依頼電文を受けて、銀行システム13は銀行間決済システム17を用いて、上記振替処理を行なう（ステップS140）。また、上記開封通知を受けて、証券会社システム7はバイヤからの証券売買注文を証券マーケットに出す。

20

【0118】

バイヤが注文を出してからその注文が証券マーケットに出されるまでの上記処理は、電子的に極めて短時間に実行されるから、マーケットの変動によってバイヤが証券売買の機会を逃してしまう虞はない。

【0119】

上記振替処理が行われると、銀行システム13がカレンダーサーバ25に対し、その振替によるバイヤ口座の出金明細を送信し、カレンダーサーバ25は証券会社システム7に対しその請求書についての支払い依頼通知を送信する。

30

【0120】

その後、証券会社システム7から銀行システム15に対しその請求書について入金明細の照会依頼が行くと（ステップS142）、銀行システム15はカレンダーサーバ25と証券会社システム7にその入金明細を送り、カレンダーサーバ25と証券会社システム7はその入金明細に基づいてその請求書を帳消しする（ステップS143）。

【0121】

図21は、サプライヤがローン会社である場合に、この実施形態のシステムが行うことができる、さらに別の全体動作の概略的流れを示す。

【0122】

図21において、バイヤからバイヤシステム3を通じてバイヤのローンについての照会を受信すると（ステップS167）、カレンダーサーバ25は、貸し付け金額や返済予定などのローン取引明細をバイヤシステム3に送信する（ステップS168）。

40

【0123】

また、カレンダーサーバ25は、サプライヤ（ローン会社）システム7からローン返済に係る請求書を受信し、これを保存し（ステップS169）、その請求書が到達した旨をバイヤシステム3に通知する（ステップS170）。バイヤが請求書内容をバイヤシステム3上で確認すると、カレンダーサーバ25は、その請求書内容の確認と承認の通知をバイヤシステム3から受信する（ステップS171）。すると、カレンダーサーバ25は、銀行システム13に対し、バイヤ口座からローン会社口座への返済額の振替依頼電文を送信し（ステップS172）、また、バイヤによる請求書が開封された旨の通知をローン会社

50

システム 7 に送信する (ステップ S 1 7 4)。

【0124】

上記振替依頼電文を受信すると、銀行システム 1 3 は銀行間決済システム 1 7 を用いて上記振替処理を行う (ステップ S 1 7 3)。振替処理が行なわれると、銀行システム 1 3 がカレンダーサーバ 2 5 に対し、その振替によるバイヤ口座の出金明細を送信し、これに回答して、カレンダーサーバ 2 5 はローン会社システム 7 に対し、支払い依頼 済み 通知を送信する。

【0125】

その後、ローン会社システム 7 から銀行システム 1 5 に対しその請求書について入金明細の照会依頼が行くと (ステップ S 1 7 5)、銀行システム 1 5 はカレンダーサーバ 2 5 とローン会社システム 7 にその入金明細を送り、カレンダーサーバ 2 5 とローン会社システム 7 はその入金明細に基づいてその請求書を帳消しする (ステップ S 1 7 6)。

【0126】

図 2 2 は、ファクタリング会社が一種のサプライヤとして存在する場合における、本発明に従う取引及び決済管理システムの構成を示す。

【0127】

ファクタリング会社 9 9 は、バイヤ 1 に対する売掛債権を持っている或るサプライヤ 5 からその売掛債権を買取り、そして、カレンダーサーバ 2 5 を利用してバイヤ 1 からその売掛代金を回収する。ファクタリング会社 9 9 のコンピュータシステム (ファクタリングシステム) 9 7 は、所定の通信ネットワークを介してサプライヤシステム 7 及びカレンダーサーバ 2 5 と通信可能である。取立システム 9 8 が、バイヤの口座を預かる銀行システム 1 3 及びファクタリング会社 9 9 の口座を預かる銀行システム 1 5 と通信可能である。

【0128】

図 2 3 は、図 2 2 のシステムの全体処理の概略的な流れを示す。

【0129】

図 2 3 において、サプライヤシステム 7 がファクタリングシステム 9 7 に、バイヤ 1 宛ての電子請求書を送信して、ファクタリングシステム 9 7 に取立依頼する (ステップ S 2 4 4)。ファクタリングシステム 9 7 は、カレンダーサーバ 2 5 に、その請求書をリアルタイム又は所定のタイミングで送信する (ステップ S 2 4 5)。カレンダーサーバ 2 5 は、ファクタリングシステム 9 7 から受信した請求書をデータベースに保存すると共に、バイヤシステム 3 に対して、その請求書の内容を送信して表示させる (ステップ S 2 4 6)。バイヤシステム 3 に送られる請求書の内容には、入金先口座情報及び請求金額情報などが含まれる。

【0130】

バイヤ 1 がバイヤシステム 3 に表示された請求書の内容を確認し承認すると (ステップ S 2 4 7)、カレンダーサーバ 2 5 は、ファクタリング会社 9 9 の口座を扱う銀行システム 1 5 に対し、請求書の支払いのための取立依頼を送信する (ステップ S 2 4 8)。銀行システム 1 5 は、取立システム 9 8 を用いて、銀行システム 1 3 のバイヤ口座から銀行システム 1 5 のファクタリング会社口座へ請求金額を移動させるという取立処理を行う (ステップ S 2 4 9)。

【0131】

銀行システム 1 5 は、上記取立処理が完了すると、リアルタイムで又は所定のタイミングで、取立の完了通知をカレンダーサーバ 2 5 に送信する。カレンダーサーバ 2 5 は、その取立完了通知を受信すると、データベース内のその請求書を帳消しし (つまり、その請求書の状態を支払済みに更新し)、また、その取立完了通知をファクタリングシステム 9 7 に送る (ステップ S 2 5 0)。

【0132】

また、カレンダーサーバ 2 5 は、上記取立処理によるバイヤ口座の出金明細を銀行システム 1 3 から受信し、その出金明細をデータベースに登録し、リアルタイム又は所定のタイミングで、その出金明細に基づく取立完了の通知をバイヤシステム 3 に送る (ステップ S

10

20

30

40

50

251)。

【0133】

上述した実施形態のシステムは、本発明を説明するための例示である。本発明に従う取引及び決済管理システムは、上記実施形態以外の様々な用途にも利用できる。例えば、銀行に設けられた預金口座だけでなく、保険会社に設けられた預金口座や、証券会社に設けられた預金口座などにおける資金の管理にも、本発明の取引及び決済管理システムを摘要することができる。また、電子請求書の詳細内容は、エレクトロニックバンキングシステム21だけでなく、カレンダーサーバ25が保存することができる。また、上述してあるかもしれないが、カレンダーサーバ25或いは他のシステムが、上述した電子的な請求書に基づいて振込電文（振込みを行うための電子データ、例えば、その電子データが表示された画面上で振込依頼が入力されたときは自動的に所望の口座から別の所望の口座へ振込みが行われる）を自動的に作成することができる。また、サプライヤシステム7は、電子請求書を取得し、その電子請求書（例えばそれに含まれている支払期限を示すデータ）を用いて、入金予定日を推定することができる（例えば、支払期限が2001年1月10日であれば、入金予定日を2001年1月10日に決定する、或るいは、パイヤ5の過去の入出金履歴に基づいた日付（例えば、支払期限2日前の2001年1月8日）に入金予定日を決定することができる）。また、パイヤシステム3は、電子請求書を取得し、その電子請求書（例えばそれに含まれている支払期限を示すデータ）を用いて、出金予定日を推定することができる（例えば、支払期限が2001年1月10日であれば、出金予定日を2001年1月10日に決定する、或るいは、パイヤ5の過去の入出金履歴に基づいた日付（例えば、支払期限2日前の2001年1月8日）に出金予定日を決定することができる）。すなわち、サプライヤ5及びパイヤ1は、キャッシュフローの予測を容易にたてることができる。

10

20

【0134】

以下では、本発明の更に別の実施形態に係る取引・決済・ニュース管理システムについて説明する。

【0135】

図24は、この実施形態に係る取引・決済・ニュース管理システムの全体構成を示すブロック図である。

【0136】

図24に示すように、サプライヤシステム301、電子モール303、銀行システム305、パイヤシステム307、及びカレンダーサーバ309が、インターネットなどを通じて通信可能に接続されている。サプライヤシステム、電子モール、銀行システム及びパイヤシステムは実際には多数存在するであろうが、図24ではそれぞれ1つのみを代表的に示している。

30

【0137】

サプライヤシステム301は、パイヤ宛ての電子請求書（例えば、パイヤの個人情報（氏名、住所、電話番号、生年月日など）、請求書番号、自動引落とし日又は支払い期限、請求金額、パイヤの口座番号、サプライヤの口座番号、及びEDI情報等を含む）を、銀行システム305及びカレンダーサーバ309へ送信する。また、サプライヤシステム301は、サプライヤが提供するサービスや商品等の広告、サプライヤのホームページのURL又は非商業的な広告のような、サプライヤがパイヤに知らせたい情報（以下、「ニュース」という）を、カレンダーサーバ309へ送信する。各ニュースには、そのニュースの内容、そのニュースをパイヤに知らせるべき期間的条件（表示期日）、そのニュースを知らせるべきパイヤの条件（対象者）、そのニュースの内容の分野及び種類などの情報が含まれている。

40

【0138】

電子モール303は、様々な商品（品物だけでなくサービスも含む意味）について、いわゆるオンライン・ショッピングのサービスをパイヤに提供するシステムである。電子モール303は、パイヤがオンライン・ショッピングで商品を購入したとき、電子請求書（例

50

えば、そのバイヤの個人情報（バイヤの氏名、住所、電話番号、生年月日など）、請求書番号、自動引落とし日又は支払い期限、請求金額、バイヤの口座番号、及びサプライヤの口座番号等を含む）を、銀行システム 305 及びカレンダーサーバ 309 へ送信する。また、電子モール 303 は、受注、決済又は発送処理を完了したときは、その旨を記載した電子メールをカレンダーサーバ 309 へ送信し、バイヤがカレンダーサーバ 309 にアクセスしたときに、バイヤに対し受注、決済又は発送処理を完了したことがカレンダーサーバ 309 からバイヤに対しメッセージで通知されるようにする。

【0139】

銀行システム 305 は、バイヤの預金口座の管理している。銀行システム 305 は、サプライヤシステム 301 又は電子モール 303 からの依頼電文に基づいて、バイヤの口座に対して入出金処理を行い、電子的な入出金明細（例えば、科目、入出金日付、入出金金額、残高、摘要及び E D I 情報等を含む）を、カレンダーサーバ 309 へ送信する。また、銀行システム 305 は、銀行が提供する各種の金融商品や金融サービス等の広告、銀行のホームページの URL、又は非商業的な広告などの、銀行がバイヤに知らせたい情報（以下、これも「ニュース」という）をカレンダーサーバ 309 へ送信する。各ニュースには、そのニュースの内容、そのニュースをバイヤに知らせるべき期間的条件（表示期日）、そのニュースを知らせるべきバイヤの条件（対象者）、そのニュースの内容の分野及び種類などの情報が含まれている。

【0140】

また、銀行システム 305 は、インターネットバンキングシステムのようなエレクトロニックバンキングシステムと接続されていて、バイヤシステム 307 に対し、残高照会、入出金明細照会及び口座振替などの銀行業務サービスをオンラインで提供することができる。また、銀行システム 305 は、エレクトロニックバンキングシステムを利用するバイヤシステム 307 へ提供する GUI 画面上に、カレンダーサーバ 309 へアクセス（ジャンプ）するためのボタンを設けている。従って、バイヤシステム 307 に表示された銀行システム 305 の GUI 画面上でそのボタンがバイヤによりポインティングデバイスでクリックされたときは、バイヤシステム 307 はカレンダーサーバ 309 に接続される。

【0141】

バイヤシステム 307 は、インターネット上の各種サーバにアクセスできる機能を有した（典型的には、インターネット接続機能と WWW ブラウザを搭載した）、例えば、パーソナルコンピュータ、携帯電話機、PDA などであるが、これらの例示のみに限られるわけではない。バイヤは、バイヤシステム 307 を利用して、電子モール 303 にアクセスしてオンライン・ショッピングを行ったり、エレクトロニックバンキングシステムを通じて銀行システム 305 にアクセスして残高照会、入出金明細照会又は口座振替などを行ったりすることができる。

【0142】

さらに、バイヤは、バイヤシステム 307 を利用してカレンダーサーバ 309 にアクセスすることで、後に詳細に説明するように、サプライヤシステム 301 及び電子モール 303 から送られた請求書や銀行システム 305 から送られたバイヤ口座の入出金情報を閲覧したり、それらの請求書への支払い依頼を銀行システム 305 へ送ったり、更には、サプライヤシステム 301、電子モール 303 及び銀行システム 305 から送られた様々なニュースを閲覧したりすることができる。

【0143】

バイヤがバイヤシステム 307 を用いてカレンダーサーバ 309 にアクセスするための方法には、銀行システム 305 のエレクトロニックバンキングシステムへログインした時に表示される GUI 画面からカレンダーサーバ 309 へジャンプする方法や、カレンダーサーバ 309 に直接的にアクセスする方法や、サプライヤのホームページからカレンダーサーバ 309 へジャンプする方法など、様々なものが採用し得る。

【0144】

カレンダーサーバ 309 は、バイヤシステム 307 に対してそのバイヤ専用の 2 枚のカレ

10

20

30

40

50

ンダー画面を提供する（図 25、図 26、図 32、図 33、図 34 参照）。一枚目のカレンダー画面（図 25、図 26）は「口座管理カレンダー」と呼ばれ、もう 2 枚目のカレンダー画面（図 32、図 33、図 34）は「ニュースカレンダー」と呼ばれる。

【0145】

口座管理カレンダー（図 25、図 26）には、サプライヤシステム 301、電子モール 303 及び銀行システム 305 から送られたバイヤ宛ての電子請求書及びバイヤ口座の入出金明細が貼り付けられている。ニュースカレンダー（図 32、図 33、図 34）には、サプライヤシステム 301、電子モール 303 及び銀行システム 305 から送られたニュースのうち、バイヤの消費動向に応じてカレンダーサーバ 309 が選択したニュースが貼り付けられている。

10

【0146】

カレンダーサーバ 309 は、受信したバイヤ宛ての請求書及びバイヤ口座の入出金明細から、バイヤの消費動向に影響するスケジュール（例えば、口座の残高、将来の入出金予定、定期預金満期予定など）（以下、「バイヤスケジュール」という）を推測してこれをデータベースに保存する。また、カレンダーサーバ 309 は、社会の慣習的な又は季節的なイベント（例えば、クリスマス、祝祭日、連休、パケーション期間など）の予定も、バイヤの消費動向（例えば、プレゼント、旅行、商品購入など）に影響するバイヤスケジュールとしてデータベースに記憶している。さらに、カレンダーサーバ 309 は、バイヤからバイヤシステム 307 を通じて、バイヤの個人的なイベント（例えば、誕生日、車検、祝事、冠婚葬祭、保険満期、契約更新、旅行など）の予定の入力を受け付け、そして、そのバイヤが入力した個人的なイベント予定も、バイヤの消費動向に影響するバイヤスケジュールとして保存する。

20

【0147】

カレンダーサーバ 309 は、データベースに保存してある様々なニュースの中から、上記のバイヤスケジュールに関連するニュース（例えば、プレゼント予定に対してプレゼント用商品の広告、旅行予定に対して旅行サービスの広告、車検に対して自動車の広告、又はローンの返済予定日に対してより有利なローンの広告）、換言すればバイヤの消費動向に沿ったニュースを選択する。そして、カレンダーサーバ 309 は、その選択されたニュースの通知日付（そのニュースをバイヤに通知すべき日付）を、上記バイヤスケジュールに基づいて、最適に決定する。例えば、各ニュースの通知日付は、そのニュースに対応するバイヤスケジュールより適当期間だけ前の日付（例えば、プレゼント予定日の一ヶ月前の日付け、旅行予定日の 2 ヶ月前、車検予定日の当日、又はローンの返済予定日の 2 ヶ月前など）に決定される。そして、カレンダーサーバ 309 は、上記選択したニュースを、前記ニュースカレンダー（図 32、図 33、図 34）上のそのニュースの通知日付のスペースに貼り付けて、バイヤシステム 307 へ提供する。

30

【0148】

上記の処理を行うために、カレンダーサーバ 309 は、図 24 に示すように、入出金明細保存部 311 と、請求書保存部 312 と、ニュース保存部 313 と、バイヤスケジュール保存部 315 と、情報保存処理制御部 317 と、カレンダー表示制御部 319 とを備えている。カレンダーサーバ 309 のこれらの機能部 311 ~ 319 は、典型的には、コンピュータプログラムによって実現される。

40

【0149】

入出金明細保存部 311 には、銀行システム 305 から受信したバイヤ口座の入出金明細が保存される。請求書保存部 312 には、サプライヤシステム 301 や電子モール 303 から受信したバイヤ宛ての請求書が保存される。ニュース保存部 313 には、サプライヤシステム 301、電子モール 303 及び銀行システム 305 から受信した様々なニュースが保存される。バイヤスケジュール保存部 315 には、上述した様々なバイヤスケジュールが保存される。

【0150】

情報保存処理制御部 317 は、サプライヤシステム 301、電子モール 303、及び銀行

50

システム 305 から受信した請求書、入出金明細及びニュースを、識別して、請求書保存部 311、入出金明細保存部 312、及びニュース保存部 313 にそれぞれ保存する。

【0151】

カレンダー表示制御部 319 は、バイヤシステム 307 に対して、上述した口座管理カレンダー、ニュースカレンダー及びその他の幾つかの GUI 画面を提供する。カレンダー表示制御部 319 は、口座管理カレンダーをバイヤシステム 307 に表示するときは、入出金明細保存部 311 から関連する入出金明細を、請求書保存部 312 から関連する請求書をそれぞれ読み出し、それら入出金明細及び請求書を口座管理カレンダー上の対応する日付スペースに貼り付ける。また、カレンダー表示制御部 319 は、ニュースカレンダーを表示するときは、バイヤスケジュール保存部 315 からバイヤスケジュール（例えば、ローン返済予定日、定期預金満期日、誕生日、車検予定日、祝事予定日、旅行予定日、クリスマス、バケーション予定期間など）を読み出し、そして、それらバイヤスケジュールに関連するニュースをニュース保存部 313 から抽出して、抽出したニュースの通知日付を、対応するバイヤスケジュールの日付に基づいて最適に決定し、そして、その抽出したニュースを、ニュースカレンダー上の通知日付のスペースに掲載する。

10

【0152】

また、カレンダー表示制御部 319 は、バイヤシステム 307 からの要求に応じて、バイヤの個人的なイベント予定を入力するための画面をバイヤシステム 307 に提供し、そして、その画面にバイヤが入力したイベント予定をバイヤスケジュール保存部 315 に保存する。

20

【0153】

さらに、カレンダー表示制御部 319 は、サプライヤシステム 301 又は電子モール 303 から電子メール等でバイヤ宛ての請求書を受信したときは、その旨をバイヤシステム 307 の GUI 画面上に表示する。

【0154】

以下、カレンダー表示制御部 319 がバイヤシステム 307 に提供する様々な GUI 画面について詳述する。

【0155】

図 25 は、カレンダー表示制御部 319 がバイヤシステム 307 に提供するメイン画面の構成を示す。

30

【0156】

メイン画面 321 は、メニューエリア 323 と、カレンダーエリア 325 で構成される。

【0157】

メニューエリア 323 には、「月表示」メニュー 329、「週表示」メニュー 331、「日表示」メニュー 333、及び「電子通帳」メニュー 335 と、どの表示方法が選択されているかを示す矢印が表示される。このメイン画面 321 上で「月表示」メニュー 329 がマウスやペンタブレット等のポインティングデバイスでクリックされたときは、月毎の口座管理カレンダー又はニュースカレンダーが表示される。また、「週表示」メニュー 331 がクリックされたときは、週毎の口座管理カレンダー又はニュースカレンダーが表示され、「日表示」メニュー 333 がクリックされたときは、口座管理カレンダー又はニュースカレンダー上で指定された日の請求書や入出金情報が或る程度詳細に表示される。また、「電子通帳」メニュー 335 がクリックされたときは、バイヤ口座の預金通帳の内容をこのメイン画面 321 上に表示する。

40

【0158】

カレンダーエリア 325 には、口座管理カレンダーのタブ 337 と、ニュースカレンダーのタブ 339 と、年月日表示エリア 341 が設けられている。口座管理カレンダーのタブ 337 がクリックされたときは口座管理カレンダーエリア 326 の口座管理カレンダー 400 を前面表示し、ニュースカレンダーのタブ 339 がクリックされたときはニュースカレンダーエリア 363 のニュースカレンダー 411 を前面表示する（図 32 参照）。年月日表示エリア 341 には、後述するように、バイヤに選択された表示方法、つまり、月表

50

示、週表示、又は日表示に応じた態様で、年月日を表示する。

【0159】

カレンダー表示制御部319は、このメイン画面321上で、口座管理カレンダーのタブ337及び「月表示」メニュー329がクリックされたときは、図25に示すように、月表示に対応した態様で年月日表示エリア341に年月日を表示すると共に、現在の月又はパイヤに指定された月の口座管理カレンダー400を口座管理カレンダーエリア326に表示する。

【0160】

「月表示」が選択されたときの年月日表示エリア341には、現在の年月日（ここでは「2000年6月26日」とする）又はパイヤに指定された年月日と、パイヤが所望の年月を指定するための年月指定メニュー343が表示される。年月指定メニュー343には、現在表示されている年における所望の月を指定するための「1月」～「12月」メニューと、現在表示されている年の直前の年を指定するための「前年へ」メニューと、現在表示されている年の翌年を指定するための「翌年へ」メニューが表示される。なお、年月指定メニュー343の「6月」の文字が四角で囲まれていることは、現在表示している月が6月であることを示す。

【0161】

月毎の口座管理カレンダー、例えば図示の2000年6月の口座管理カレンダー400には、2000年6月におけるパイヤ口座の入出金明細及び入出金予定並びにパイヤ宛ての請求書を表すマーク（アイコンと文字列）が、入出金日付及び請求書受信日付のスペースにそれぞれ貼り付けられている。各マークはアイコンと文字列とから構成される。例えば、自動引落しや現金引出し等の出金明細のマークには「-（マイナス）」のアイコンが、給与振込み等の入金明細のマークには「+（プラス）」のアイコンが付けられる。また、例えば、残高不足等で出金に失敗した出金予定や支払い期限が過ぎた請求書には「！」のアイコンが、支払い済みの請求書には「済」のアイコンが、支払期限が過ぎておらず且つ未払いの請求書には「未」のアイコンが付いている。

【0162】

パイヤは、この口座管理カレンダー400から、2000年6月における自己の入出金明細状況又は請求状況の概要を一目で把握することができる。例えば、6/1（木）に水道料金及び電気料金の自動引落しが行なわれたこと、6/2（金）に現金引出しを行ったこと、6/5（月）にガス料金の自動引落し及び自分の口座に振込みがされたこと、6/6（火）が支払期限である携帯電話料金が未納であること及び6/6（火）に有料TV（PTV）受信料が自動引落しされたこと、6/7（水）に現金引出しを行ったこと、6/9（金）に給与振込が行なわれたこと、6/12（月）にABCカードローンの自動引落しがされたこと、6/21（水）が電子モール303で購入したTシャツの請求金額の支払期限であるが既に振込済みであること、及び、6/28（水）が電子モール3で購入したスニーカーの請求金額の支払期限であってそれが未振込であることがパイヤは一目で把握できる（なお、図示の口座管理カレンダー400の6/26の欄が斜線表示されているが、これは現在の年月日を示すものである）。

【0163】

以上のように、カレンダー上に口座（通帳）情報及び請求書が表示されるので、パイヤにとって、日毎は勿論、月毎及び週毎でのキャッシュフローが管理し易くなり、且つ、通帳のように単にリストで表示されるよりも見やすいものとなる。

【0164】

なお、このメイン画面321の所定の箇所には、図示しないが、カレンダーサーバ309にサプライヤシステム301又は電子モール303から請求書が電子メール等によって送られて来たときに、リアルタイムに又は所定のタイミングでその旨のメッセージが表示される（例えば、「7月の口座管理カレンダーに請求書が掲載されました」など）。これにより、パイヤは、電子メールで受信する多種多様な情報（友人・知人・家族の情報、会社・仕事の情報、ダイレクトメール等）の中から請求書・利用明細書に関するメールを探す

10

20

30

40

50

という煩わしさから解消されるので、便利である。

【0165】

図25に示した、月毎の口座管理カレンダー400が表示されているメイン画面321において、パイヤは、所定の操作をすれば、より詳細に口座（通帳）情報及び請求書を表示させることができる。例えば、図25に示したメイン画面321において、口座管理カレンダー400の6/4～6/10のいずれかの欄を指定した後に「週表示」メニュー331をクリックしたときは（或いは口座管理カレンダー400の6/4の欄の左脇にある「週表示」メニュー334をクリックしたときは）、口座管理カレンダーエリア326には、6/4～6/10の週に係る口座管理カレンダーが表示される。

【0166】

図26は、週毎の口座管理カレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

【0167】

図26において、年月日表示エリア341には、週表示に応じた態様で年月日が表示される。例えば、この図に示すように、パイヤに指定された週6/4～6/10と、週選択メニュー345が表示される。週選択メニュー345には、例えば、パイヤに指定された週に係る月「6月」における全部の週5/28～6/3、6/4～6/10、6/18～6/24、6/25～7/1が表示される。パイヤは、この中から所望の週を指定（クリック）すれば、その所望の週に係る口座情報及び請求書を口座管理カレンダーエリア326に表示できる。

【0168】

口座管理カレンダーエリア326には、パイヤに指定された週6/4～6/10に係る入出金明細及び請求書が、月表示のときよりも詳細に表示される。例えば、その週に係る入出金明細及び請求書の「日・曜日」、「科目（概要）名」、及び「取引金額／請求金額」が表示される。

【0169】

図26に示した週毎の口座管理カレンダーにおいて、パイヤが所望の日付（例えば6/6）のスペースをクリックして日表示メニュー333をクリックすると（或いは週毎の口座管理カレンダーの6/6のスペースをダブルクリックすると）、口座管理カレンダーエリア326には、日毎（つまり6/6の）口座管理カレンダーが表示される。（なお、日毎の口座管理カレンダーは、月毎の口座管理カレンダー中の所望の日付スペースを指定して 30
日表示メニュー333をクリックすることでも、表示することができる）。

図27は、日毎の口座管理カレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

【0170】

図27に示すように、口座管理カレンダーエリア326に、パイヤに指定された日（例えば2000年6/6）における入出金明細及び請求書がある程度に詳細に表示される。例えば、自動引落しが完了した「PTV受信料」に関しては、「入出金明細」情報として、その自動引落しがされた口座（通帳）の情報（例えば、「×銀行、豊洲支店、普通口座、口座番号：0123456」と、取引の「科目名（PTV受信料）」と、その「取引金額（¥2640）」と、取引（自動引落し）後の「残高（例えば¥348240）」とが表示される。また、自動引落しができなかったために請求書が通知された「携帯電話 40
料金」に関しては、その請求書の、例えば、「企業名（例えばAA移動通信網）」と、「サービス名（例えばabcd）」と、「請求書番号（例えば012345）」と、「請求期限（例えば2000年6月30日）」と、「請求金額（¥11915）」とが表示され、更に、支払ボタン347も表示される。

【0171】

パイヤが支払ボタン347をクリックすると、メイン画面321は図28に示すものに切り替わる。

【0172】

図28は、図27に示した日毎の口座管理カレンダーにおいて或る請求書の支払ボタン347をクリックしたときに切り替わって現れる、その請求書の詳細内容を表したメイン画 50

面の例を示す。

【0173】

図28に示すように、口座管理カレンダーエリア326に、請求書の最も詳細な内容（例えば、請求金額の内訳等も含む）が表示され、また、支払ボタン349が表示される。バイヤが支払ボタン349をクリックすると、メイン画面321は図29に示すものに切り替わる。

【0174】

図29は、図28のメイン画面上で支払ボタン349をクリックしたときに切り替わって現れる、支払い口座選択のためのメイン画面の例を示す。

【0175】

図29に示すように、口座管理カレンダーエリア326に、「振込み口座選択」メニュー350が表示され、また、支払ボタン351も表示される。振込み口座選択メニュー350では、カレンダー309に予め登録されていたバイヤの全ての預金口座の、「支店名」、「科目」、「口座番号」、「預金残高」、「残高確定日時」が一覧表示される。また、各口座の表示にはラジオボタンが付いている。

【0176】

バイヤは、請求金額以上に預金残高がある所望の口座を、そのラジオボタン（例えば、353）をクリックすることで、選択し、そして、支払ボタン351をクリックする。すると、図29に示すメイン画面321は、図30に示す支払条件の確認用の画面に切り替わる。

【0177】

図30に示すように、口座管理カレンダーエリア326には、支払元のバイヤ口座の情報、支払先のサプライヤ口座の情報、及び支払い金額などの支払い条件が表示される。バイヤ口座についての暗証番号の入力エリア及び支払ボタン355も表示される。

【0178】

この支払い条件を確認したら、バイヤは、バイヤ口座の暗証番号を入力して、支払ボタン355をクリックする。この操作により、支払い（口座振替）依頼電文が自動的に銀行305へ送られ、支払い処理が実行される。

【0179】

以上の、口座管理カレンダーによれば、バイヤの入出金明細及び請求書の概要、並びに請求書の状態（未支払い、支払い済み、期限過ぎなど）が、対応する日付スペースに表示される。また、未支払いの請求書については、ポインティングデバイスのクリックという極めて簡単な操作で支払いを行うことができる。

【0180】

なお、図25～図30に例示したメイン画面321において、バイヤが表示方法選択メニューエリア323上に表示される「電子通帳」メニュー335をクリックすれば、図31に示すように、バイヤ口座の過去の入出金明細を日付順にリスト表示した電子通帳が表示される。

【0181】

また、図25～図30に例示したメイン画面321において、バイヤがニュースカレンダーのタブ339をクリックすると、図32に例示するようなニュースカレンダー411が前面表示される。

【0182】

図32は、月毎のニュースカレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

【0183】

図32に示すように、ニュースカレンダーエリア363が前面に配置され、そこに月毎のニュースカレンダー411が表示される。

【0184】

また、バイヤスケジュールウィンドウ365が開き、そこにバイヤスケジュール保存部315から読出されたバイヤスケジュールが日付順でリスト表示される。例えば、1月の欄

10

20

30

40

50

には「長女成人式（１／１５）」が、２月の欄には「温泉（２／１０～２／１４）」が、４月の欄には「次女中学入学式（４／３）」が、５月の欄には「出張（５／２０～５／２３）」が、６月の欄には「車検（６／１９）」、「賃貸契約更新（６／９）」、及び「リフォーム（６／２９）」が、７月の欄には「次女誕生日（７／１２）」及び「結婚式（７／４）」が、１２月の欄には「クリスマス（１２／２５）」が表示される。

【０１８５】

また、バイヤスケジュールウィンドウ３６５には、予定登録ボタン３６７が表示される。バイヤが予定登録ボタン３６７をクリックすれば、図３５に例示するイベント予定登録画面が表示される。バイヤは、そのイベント予定登録画面上で、自由に自分のイベント予定を入力することができる。これについては後述する。

10

【０１８６】

図３２に示すニュースカレンダー４１１には、カレンダー表示制御部３１９によってニュース保存部３１３から抽出された、バイヤスケジュールに関連したニュースが貼り付けられており、各ニュースが貼り付けられた日付スペースには、各ニュースの示すマーク（例えば、そのニュースの概要を示す文字列）が表示されている。各ニュースが貼り付けられた日付は、各ニュースに対応するバイヤスケジュールの日付よりも所定期間（例えば、ゼロ日、１日前、１週間、１ヶ月、２ヶ月など）だけ前の日付である。その所定期間とは、サブライヤシステム３０１、電子モール３０３又は銀行システム３０５からカレンダーサーバ３０９が受信したそのニュースのデータ中に、前述した期間的条件（表示期間）として含まれていた値である。

20

【０１８７】

例えば、図３２に示すように、「結婚式（７／４）」というバイヤスケジュールに対して、その日付の１ヶ月前であるニュースカレンダーの６／４のスペースに、結婚式に関連する「結婚式カードローン情報」や「贈り物情報」というニュースが掲載されている。上記１ヶ月前という期間的条件は、「結婚式カードローン情報」及び「贈り物情報」のデータに含まれていた値である。また、「次女誕生日（７／１２）」というバイヤスケジュールに対して、その日付の１ヶ月前であるニュースカレンダーの６／１２のスペースに、「女の子が喜ぶプレゼント」というニュースが掲載されている。上記１ヶ月前という期間的条件は、「女の子が喜ぶプレゼント」のデータに含まれていた値である。また、毎月１２日にバイヤ口座からローン返済の引落としが行われるという入出金明細に基づくバイヤイベントに対して、ニュースカレンダーの６／１２の欄に「ローン借換え情報」というニュースが掲載されている。また、「車検（６／１９）」というバイヤイベントに対して、当日であるニュースカレンダーの６／１９の欄に、車検による大幅な出費をサポートする「×ローン情報」や、「新車情報」や、「格安中古車情報」などのニュースが掲載される。上記当日という期間条件は、「×ローン情報」、「新車情報」及び「格安中古車情報」に含まれていた値である。

30

【０１８８】

バイヤは、このニュースカレンダー４１１に掲載されたニュースについてより詳細な内容を知りたいときは、この月毎のニュースカレンダーを週毎又は日毎に切り替える。

【０１８９】

図３３は、週毎のニュースカレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

40

【０１９０】

図３３に示す週毎のニュースカレンダー４１３は、６／１８（日）～６／２４（土）に関するものである。このニュースカレンダー４１３の１９日（月）の欄には、ニュースの概要（例えば「×ローン情報」、「新車情報」、「格安中古車情報」のほかに、各ニュースの簡単な説明や、各ニュースに関連するホームページのＵＲＬなども掲載される。バイヤは、掲載されているＵＲＬの中から所望のＵＲＬをクリックすれば、そのＵＲＬのホームページを表示することができる。

【０１９１】

例えば、図３３において、「×ローン情報」のＵＲＬ「https://www. ×

50

bank.co.jp/loanandirect/」をクリックしたときは、図34に示すように、×ローンに関する情報が記載されたホームページ471が表示される。

【0192】

以上のように、ニュースは、ニュースカレンダー上の、バイヤスケジュールに基づいて決まる日付の場所に掲載される。なお、ニュースを表示するタイミングは、適宜に設定できるようにしても良い。例えば、図32のニュースカレンダー411の6/4の欄に表示されるニュース「結婚式カードローン情報」は、6/4になったときに初めて表示するようにしても良いし、それより前の日（例えば、7/4に結婚式があるというイベントが入力された直後）に表示されるようにしても良い。

【0193】

図35と図36は、イベント予定登録画面の一例を示す。

【0194】

このイベント予定登録画面は、前述したように、図33又は図34に示したバイヤスケジュールウィンドウ365内の予定登録ボタン367をバイヤがクリックすることで、表示される。

【0195】

このイベント予定登録画面373には、イベントの属性、例えば、「日付」、「タイトル」、「関係者」、「イベント分野」及び「イベント種類」などが入力できる。

【0196】

すなわち、バイヤは、「日付」として、そのイベントの開始と終了の日付を入力する。「タイトル」として、そのイベントの名称又は概要など任意の文字列が入力できる（「タイトル」に入力された文字列は、バイヤスケジュールウィンドウ365にリスト表示される）。「関係者」として、そのイベントに関係する人間の属性（例えば、バイヤとの続き柄、性別、年齢など）が入力できる。「イベント分野」として、そのイベントが属する大きなカテゴリ（例えば、「ビジネス」、「レジャー」、「スポーツ」、「趣味」、「旅行」、「車・バイク」、「住居」又は「お祝い」など）が入力できる。

【0197】

上記の「日付」から「イベント分野」までが入力されてから、OKボタン375をクリックされると、イベント種類エリア374に、「イベント分野」で選択された大カテゴリに属する更に詳細なカテゴリ（イベント種類）のリストと、キーワード入力欄377とが表示される。このイベント種類エリア374において、「イベント種類」として、任意の詳細カテゴリを選択するか又は任意のキーワードを入力することができる。

【0198】

イベント属性の全項目の入力を終えた後、バイヤは登録ボタン379をクリックする。これにより、イベント予定登録画面373で入力したイベントが、バイヤスケジュール一つとして、バイヤスケジュール保存部315に保存される。

【0199】

図37は、上述したようにバイヤの消費動向に沿ったニュースを選択して表示するために、カレンダーサーバ309が行う処理の流れを示す。

【0200】

図37に示すバイヤ予定登録の処理において、カレンダーサーバ309は、バイヤ予定登録の処理において、図35及び図36に例示したようなイベント予定登録画面をバイヤシステム301に表示して、バイヤによるイベントの日付、タイトル、関係者、分野、種類などの属性の入力を受け付ける（ステップS301）。そして、カレンダーサーバ309は、バイヤに入力されたイベントの属性をバイヤスケジュールとしてデータベース（バイヤスケジュール保存部315）に登録する（ステップS302、S303）。また、図37には示していないが、カレンダーサーバ309は、受信したバイヤ口座の入出金明細に基づいて、定期的な入出金予定を推測し、これもバイヤスケジュールとしてデータベース（バイヤスケジュール保存部315）に登録する。さらに、図37には示していないが、カレンダーサーバ309は、社会の慣習的なイベントも、バイヤスケジュールとしてデータベ

10

20

30

40

50

ス（バイヤスケジュール保存部 3 1 5）に登録する。

【0 2 0 1】

また、図 3 7 に示すニュース登録処理において、カレンダーサーバ 3 0 9 は、サプライヤシステム 3 0 1、電子モール 3 0 3 及び銀行システム 3 0 5 からニュースのデータを受信し（ステップ S 3 1 1）、受信したニュースのデータをデータベース（ニュース保存部 3 1 3）に登録する（ステップ S 3 1 2、S 3 1 3）。各ニュースのデータには、そのニュースの内容、表示期日（つまり、通知日付をイベント日よりどれ位の期間だけ前にするかを指定した期間的条件）、対象者、分野、種類などの条件が含まれている。

【0 2 0 2】

図 3 7 に示すニュース表示処理において、カレンダーサーバ 3 0 9 は、所定期間（例えば、今年 1 年）に発生するバイヤスケジュールをデータベース（バイヤスケジュール保存部 3 1 5）から読み出し、図 3 2 に例示したバイヤスケジュールウィンドウ 3 6 5 にリスト表示する（ステップ S 3 2 1）。そして、カレンダーサーバ 3 0 9 は、それらのバイヤスケジュールの属性にマッチした条件をもったニュースをデータベース（ニュース保存部 3 1 3）から読み出し、各ニュースの通知日付を、各ニュースの期間的条件と各ニュースにマッチしたバイヤスケジュールの日付と各ニュースの期間的条件とから決定する。そして、カレンダーサーバ 3 0 9 は、表示すべきニュースカレンダーの期間（例えば、特定の月、特定の週又は特定の日）内に入る通知日付をもったニュースを、ニュースカレンダーのその通知日付けのスペースに貼り付けて、そのニュースカレンダーをバイヤシステム 7 に表示する（ステップ S 3 2 2）。

【0 2 0 3】

以上のように、本実施形態におけるニュースカレンダー 4 1 1 によれば、バイヤの消費動向に沿ったニュースを、実際に消費が行われるより前の適当な時期に、バイヤに提供する。これにより、バイヤは、そのニュースを効果的に利用できる。サプライヤは、そのニュース提供が効果的にサービス又は商品の販売に繋がる。

【0 2 0 4】

以上、本発明の好適な実施形態を説明したが、これらは本発明の説明のための例示であって、本発明の範囲をこれらの実施例にのみ限定する趣旨ではない。本発明は、その要旨を逸脱することなく、他の種々の形態でも実施することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施形態に従う取引及び決済に係る情報の管理システムの全体的構成を示すブロック図。

【図 2】カレンダーサーバ 2 5 の請求書管理部 2 7 と会計管理部 2 9 が行う処理における電子情報の流れを示すブロック図。

【図 3】カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 に提供する月毎のカレンダー画面の一例を示す。

【図 4】カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 に提供する週毎のカレンダー画面の一例を示す。

【図 5】カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 に提供する日毎のカレンダー画面の一例を示す。

【図 6】カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 に提供する請求書リスト画面の一例を示す。

【図 7】バイヤシステム 3 に表示される請求書明細画面の一例を示す。

【図 8】カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 に提供する口座電子通帳画面の一例を示す。

【図 9】カレンダーサーバ 2 5 がバイヤシステム 3 に提供する入出金予定設定画面の一例を示す。

【図 1 0】カレンダーサーバ 2 5 がサプライヤシステム 7 に提供する請求書リスト画面の一例を示す。

【図 1 1】カレンダーサーバ 2 5 が銀行システム 1 3 又は 1 5 に提供する請求書リスト画

10

20

30

40

50

面の一例を示す。

【図 1 2】この実施形態に係るシステムにおける全体の概略的な処理の流れを示すフローチャート。

【図 1 3】カレンダーサーバ 2 5 が行う (7) 入出金明細自動分類処理と (8) 入出金予定自動設定処理と (9) 入出金明細自動帳消し処理と (1 0) 入出金明細自動通知と (1 1) 口座電子通帳処理の概略的な流れを示すフローチャート。

【図 1 4】図 1 3 に示した全体処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う (4) 入出金明細自動貼付け処理の流れを示すフローチャート。

【図 1 5】図 1 3 に示した全体処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う (1) 請求書登録処理及び (5) 請求書自動貼付け処理の流れを示すフローチャート。

10

【図 1 6】図 1 3 に示した全体処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う (2) 及び (6) 請求書開封及び支払い依頼通知処理、並びに (3) 決済請求書帳消し処理の流れを示すフローチャート。

【図 1 7】図 1 4 に示した処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う (7) 入出金明細自動分類処理及び (8) 入出金予定自動設定処理の流れを示すフローチャート。

【図 1 8】図 1 4 に示した処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う (9) 入出金予定帳消し処理及び (1 0) 入出金明細自動通知処理の流れを示すフローチャート。

【図 1 9】図 1 4 に示した処理中的一部分である、カレンダーサーバ 2 5 が行う (1 1) 口座電子通帳処理の流れを示すフローチャート。

【図 2 0】サプライヤが証券会社である場合に、この実施形態のシステムが行うことができる、別の全体動作の概略の流れを示すフローチャート。

20

【図 2 1】サプライヤがローン会社である場合に、この実施形態のシステムが行うことができる、さらに別の全体動作の概略の流れを示すフローチャート。

【図 2 2】ファクタリング会社が一種のサプライヤとして存在する場合における、本発明に従う取引及び決済管理システムの構成を示すブロック図。

【図 2 3】図 2 2 のシステムの全体処理の概略的な流れを示すフローチャート。

【図 2 4】この実施形態に係る取引・決済・ニュース管理システムの全体構成を示すブロック図である。

【図 2 5】カレンダー表示制御部 3 1 9 がバイヤシステム 3 0 7 に提供する、月毎の口座管理カレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

30

【図 2 6】週毎の口座管理カレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

【図 2 7】日毎の口座管理カレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

【図 2 8】或る請求書の詳細内容を表示したメイン画面の例を示す。

【図 2 9】支払い口座選択のためのメイン画面の例を示す。

【図 3 0】支払い条件の確認用のメイン画面の例を示す。

【図 3 1】電子通帳を表示したメイン画面の例を示す。

【図 3 2】ニュースカレンダーを表示したメイン画面の例を示す。

【図 3 3】週毎のニュースカレンダーが表示されたメイン画面の例を示す。

【図 3 4】ニュースカレンダー上の或るニュースに関連したホームページが表示されたメイン画面の例を示す。

40

【図 3 5】イベント予定登録画面の一例を示す。

【図 3 6】イベント予定登録画面の別の一例を示す。

【図 3 7】カレンダーサーバ 3 0 9 がバイヤの消費動向に沿ったニュースを選択して表示するために行う処理の流れを示すフローチャート。

【符号の説明】

1 バイヤ

3 a バイヤシステム

3 b バイヤ端末

5 サプライヤ

7 サプライヤシステム

50

- 9 金融機関
1 1 金融機関
1 3 銀行システム
1 5 銀行システム
2 5 カレンダーサーバ
2 7 請求書管理部
2 9 会計管理部

FIG. 1

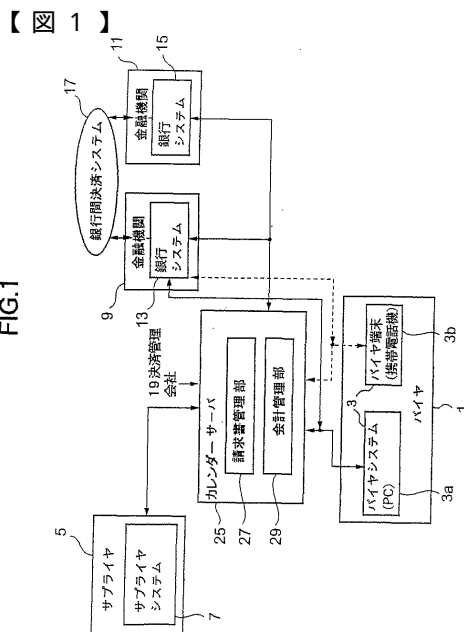
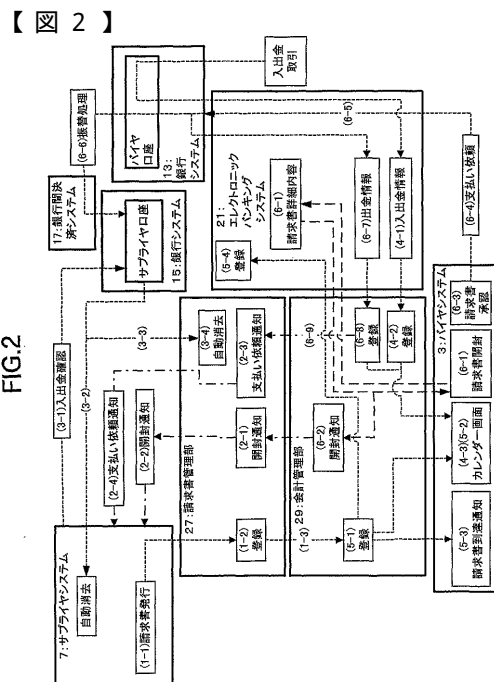


FIG. 2



【図5】

FIG.5

35 カレンダー一覧/ 印刷/ 2000/1/05

35a

35b

35c

35d

37

入金明細

取引先	振込口座	口座番号	1234567
A銀行 B支店	取引金額		
科目名	電賃料金	¥ 6,900	
合計		¥ 6,900	
残高		¥ 543,210	

請求書

C損害保険 (株)	支払	明細
支払期限	請求額	発行日
2000/2/15	¥ 34,000	2000/1/5
開封済	1212123	

【図3】

FIG.3

35 カレンダー一覧/ 印刷/ 2000/1/05

35a

35b

35c

35d

37

入金明細

取引先	振込口座	口座番号	1234567
A銀行 B支店	取引金額		
科目名	電賃料金	¥ 6,900	
合計		¥ 6,900	
残高		¥ 543,210	

請求書

C損害保険 (株)	支払	明細
支払期限	請求額	発行日
2000/2/15	¥ 34,000	2000/1/5
開封済	1212123	

【図6】

FIG.6

35 カレンダー一覧/ 印刷/ 2000/1/05

35a

35b

35c

35d

37

請求書リスト

C損害保険 (株)	支払	明細
支払期限	請求額	発行日
2000/2/15	¥ 34,000	2000/1/5
開封済	1212123	

XVショップ

支払期限	請求額	発行日
2000/2/28	¥ 56,000	2000/1/20
開封済	99994	

Z企業

支払期限	請求額	発行日
2000/2/28	¥ 7,000	2000/1/21
開封済	33335	

【図4】

FIG.4

35 カレンダー一覧/ 印刷/ 2000/1/2-1/8

35a

35b

35c

35d

37a

37b

入金明細

取引先	振込口座	口座番号	1234567
A銀行 B支店	取引金額		
科目名	電賃料金	¥ 6,900	
合計		¥ 6,900	
残高		¥ 543,210	

請求書

C損害保険 (株)	支払	明細
支払期限	請求額	発行日
2000/2/15	¥ 34,000	2000/1/5
開封済	1212123	

XVショップ

支払期限	請求額	発行日
2000/2/28	¥ 56,000	2000/1/20
開封済	99994	

Z企業

支払期限	請求額	発行日
2000/2/28	¥ 7,000	2000/1/21
開封済	33335	

【圖 7】

FIG. 7[illegible]

【 図 8 】

FIG. 8

January 2000年1月				
カワサキタロウ電子通帳				
日付	科目	お支払い金額	お預かり金額	差引残高
1/5	電気料金	¥6,900-		¥17,000,000-
1/6	水道料金	¥4,420-		¥16,995,580-
1/6	携帯電話	¥6,000-		¥16,989,580-
1/11	郵便送料	¥12,000-		¥16,759,580-
1/13	現金預け出し	¥30,000-		¥16,459,580-
1/24	現金預け込み		¥54,000-	¥1,591,580-
1/25	給与		¥250,000-	¥1,841,580-
1/27	ガス料金	¥3,210-		¥1,838,370-
1/31	XXカード	¥20,000-		¥1,818,370-
1/31	〇〇カード	¥15,000-		¥1,803,370-
53	55	57	59	61
				63

取引の予定金額と実際の金額に相違があります。

→ 確認ください。

予定金額： ¥6,500-
 実績金額： ¥6,000-

65

【 図 9 】

FIG.9

	January 2000年 1月	
39	科目名	携帯電話サービス会社
41	取引種別	<input checked="" type="radio"/> 出金取引 <input checked="" type="radio"/> 自動引当金引上 <input type="radio"/> 入金取引
43	科目グループ	入出金科目 <input checked="" type="radio"/> 公共料金 <input type="radio"/> 水道 <input type="radio"/> 電気 <input type="radio"/> ガス <input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> PHS <input type="radio"/> 携帯電話 <input type="radio"/> その他
45	取引日	2000 年 1 月 6 日
47	金額	取引日が休日の場合は 翌日 月 日 設定 予定金額 8500 円
49	自動通知	<input type="radio"/> 事前通知 <input type="radio"/> 当日 <input type="radio"/> 前日 <input type="radio"/> 2日前 49a <input type="radio"/> しない
		<input type="radio"/> する 49b 事後通知 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
		〇金額が一時的に通知する 予定取引金額と入出金明細金額が一時的に同一に通知します。 〇金額が一時的に通知する 予定取引金額と入出金明細金額が一時的に同一に通知します。 〇入金明細金額に現在の残高を通知する(振込不足の場合) 〇予定取引金額を通知する(予定取引が振込不足の場合) 〇予定しない取引が存在した時に通知する。
	備考(明細)	

【 図 1 0 】

FIG. 10

請求書検索・集計

42

期別処理

顧客名	請求 番号	原産国・産 地	請求金額	状態	状態 更新時	発行日	支払期 限	照合番号	EDI
佐藤大 船	0011	C国行 D支店 (普通)	¥2,600	通知済/ 未払振替	001/25	001/3	123-0011	123-0011	ABCD
入瀬店	0012	E国行 F支店 (通関)	¥34,000	通知済/ 未明許	001/10	001/10	123-0011	123-0011	ABCD
D支店	0013	G国行 H支店 (普通)	¥90,000	通知済/ 開行済	001/20	001/17	123-0011	123-0011	ABCD
					1225534				

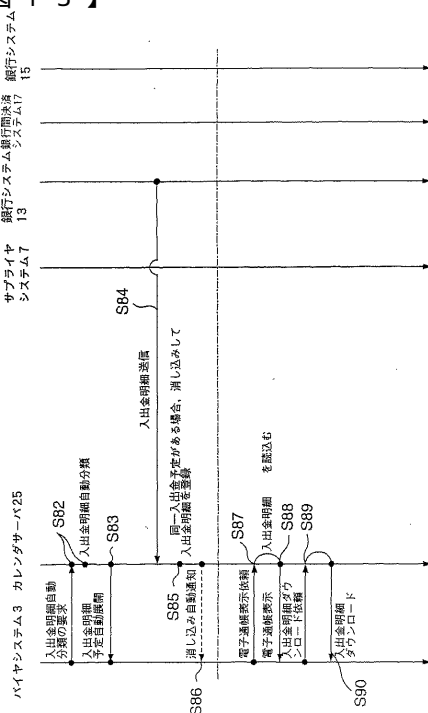
FIG.11

【図 11】

請求書検索・集計									
請求企業名	企業コード	顧客名	顧客口座	請求金額	状態	状態更新時	発行日	支払期限	
A企業	1111	佐藤太郎	C銀行 D支店 (普通) 121212	¥5,000	通知済/ 支払依頼済	001/25 10:15:58	001/10	001/31	
B企業	1234	山田サチ	銀行 B支店 (普通) 787878	¥14,000	通知済/ 未開封	001/08 11:32:45	001/15	002/3	
C企業	4321	田中三郎	銀行 M支店 (普通) 909090	¥53,000	通知済/ 開封済	001/15 12:25:34	001/14	002/4	

FIG.13

【図 13】



【図 12】

FIG.12

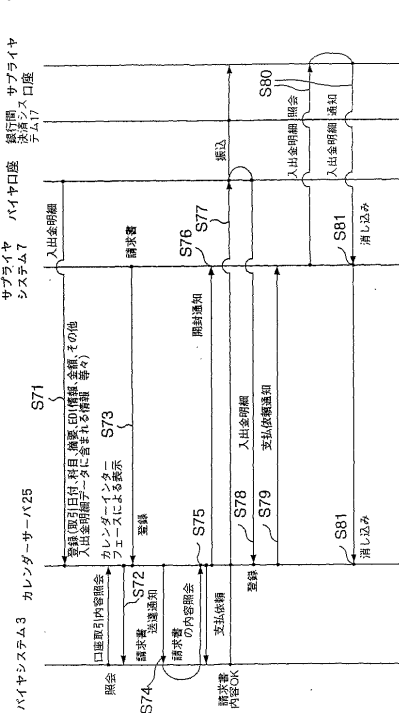
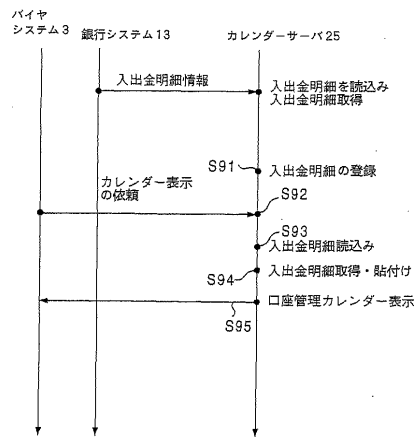


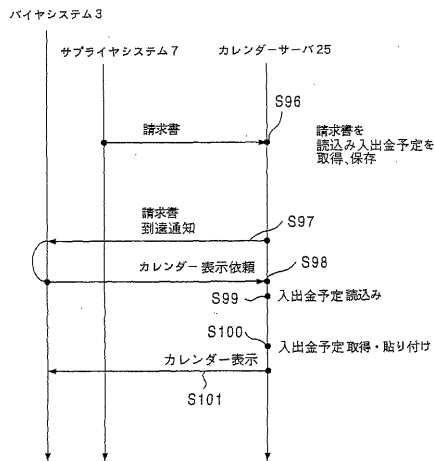
FIG.14

【図 14】



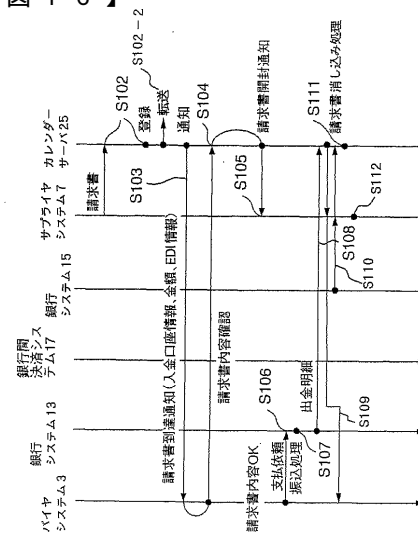
【図 15】

FIG.15



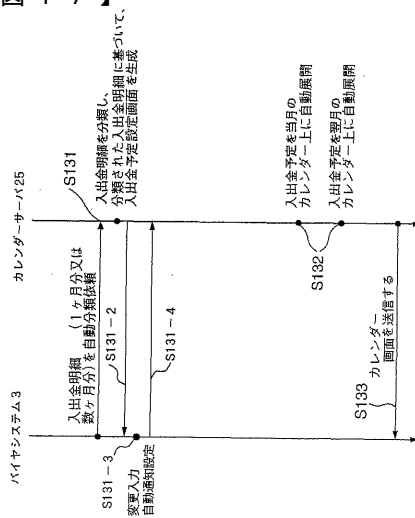
【図 16】

FIG.16



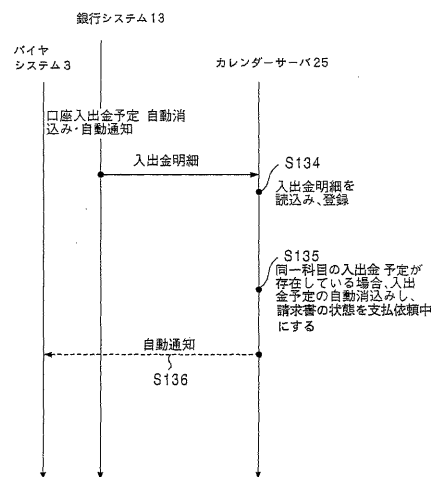
【図 17】

FIG.17



【図 18】

FIG.18



【図 21】

FIG.21

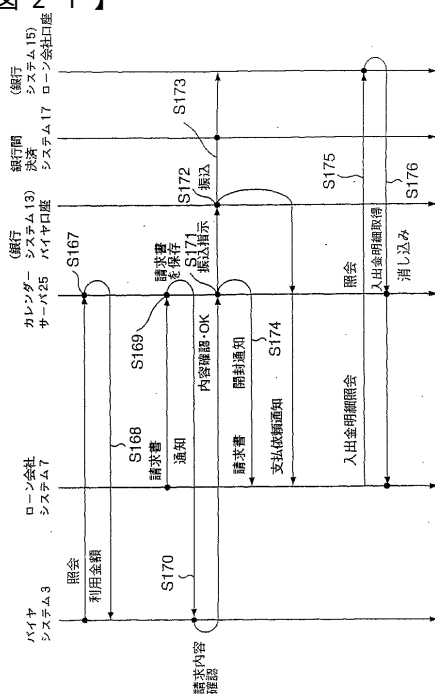
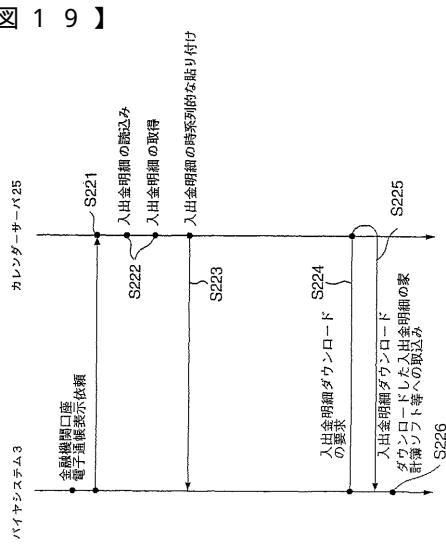


FIG.19



【図 22】

FIG.22

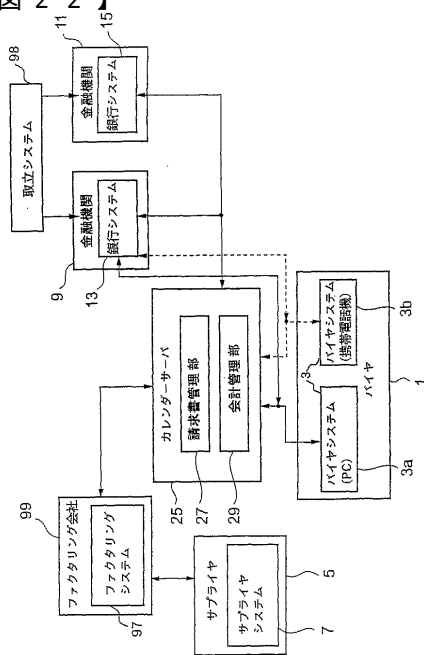


FIG.20

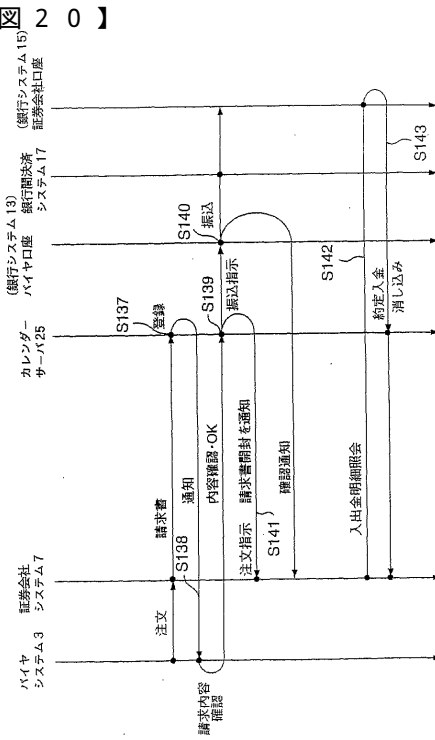


FIG. 23

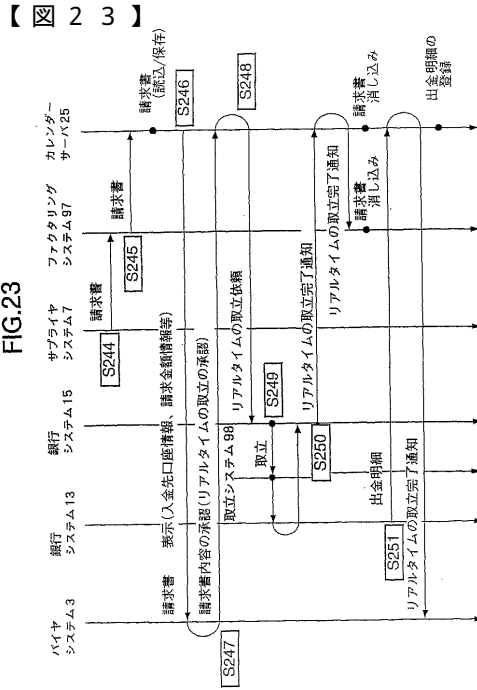


FIG. 24

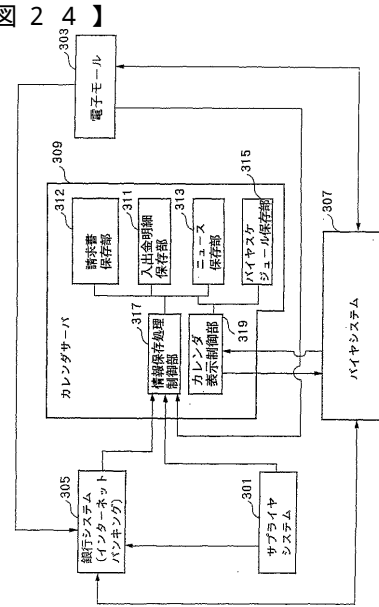


FIG. 25

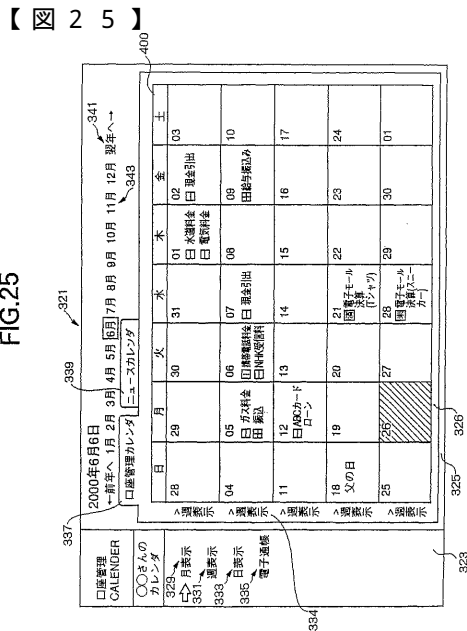


FIG. 26

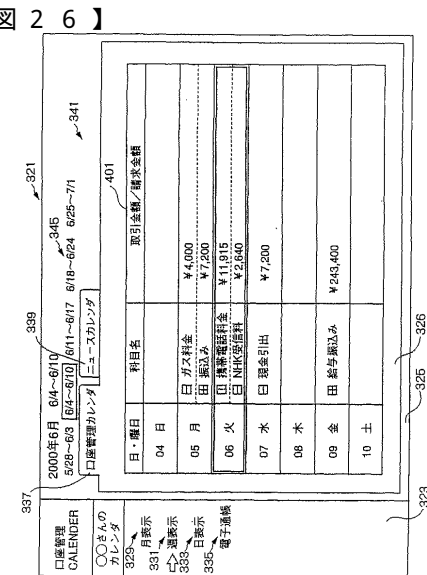


FIG. 31

☒ 3

337

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373

374

375

376

377

378

379

380

381

382

383

384

385

386

387

388

389

390

391

392

393

394

395

396

397

398

399

400

401

402

403

404

405

406

407

408

409

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

450

451

452

453

454

455

456

457

458

459

460

461

462

463

464

465

466

467

468

469

470

471

472

473

474

475

476

477

478

479

480

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

491

492

493

494

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

505

506

507

508

509

510

511

512

513

514

515

516

517

518

519

520

521

522

523

524

525

526

527

528

529

530

531

532

533

534

535

536

537

538

539

540

541

542

543

544

545

546

547

548

549

550

551

552

553

554

555

556

557

558

559

560

561

562

563

564

565

566

567

568

569

570

571

572

573

574

575

576

577

578

579

580

581

582

583

584

585

586

587

588

589

590

591

592

593

594

595

596

597

598

599

600

601

602

603

604

605

606

607

608

609

610

611

612

613

614

615

616

617

618

619

620

621

622

623

624

625

FIG. 32

321

329

331

333

335

337

339

347

321

329

331

333

335

337

口振書留

口振書留

○○○さんの
カレンダー

1月表示

2月表示

3月表示

4月表示

5月表示

6月表示

7月表示

8月表示

9月表示

10月表示

11月表示

12月表示

2000年6月6日
～新年へ 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 翌年へ～

口振書留カレンダー

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	08	09	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	01

2000年の予定

日	月	火	水	木	金	土
28	20	30	31	01	02	03
04	05	06	07	0		

FIG. 33

FIG.33

The diagram illustrates a user interface for a calendar application, divided into several functional areas:

- Top Navigation Bar:** Contains icons for home, search, and other functions, along with a page number "321".
- Main Content Area:**
 - Calendar View:** Displays a monthly calendar for June 2000, with dates from 6/1 to 6/30.
 - Navigation Links:** Includes a link labeled "日曜管理カレンダー" (Sunday Management Calendar).
 - Information Section:**
 - A paragraph about a new service: "●お客様へのお知らせ
今、この集が完成しました。今、新しいサービスの情報をお知らせします。
<https://www.xbank.co.jp/>"
 - A link to a company profile: "●株式会社情報" (<https://www.kanuma.co.jp/>)
 - A link to a company profile: "●株式会社情報" (<https://www.kanuma.co.jp/>)
 - Date List:** A vertical list of dates from 18(日) to 24(土), each with a corresponding time slot (e.g., 20時(A), 21時(B)).
- Bottom Section:**
 - Calendar Management:** Includes a section for "日曜管理" (Sunday Management) with a link to "日曜管理カレンダー" (Sunday Management Calendar).
 - Event Information:** A section titled "2000年の予定" (2000 Schedule) listing events such as "長谷川先生(2/1-2/14)", "温泉(2/10-2/14)", "次々中学入学式(4/3)", "卒業式(5/20-5/23)", "新卒就職ガイダンス(6/9)", "リフォーラム(6/25)", "次女誕生日(7/12)", and "結婚式(7/4)".
 - Footer:** Includes a page number "321" and a copyright notice "© 2000 株式会社情報".

FIG. 34

[illegible]

【図 35】

FIG.35

373

予定 (イベント) 登録

日付 2000 年 6 月 19 日 ~ 年 月 日

タイトル 車検

予定 (イベント) 関係者 本人 家族のメンバー 他人 性別 男 女 年齢 30 歳

イベント分野 (複数選択可) レジャー 〇 スポーツ 〇 趣味 〇 車・バイク 〇 住居 〇 お祝い 〇 旅行 〇

OK 376

374

車検 (車) ☒ 修理 (バイク) ☐ ドライブ ☐ ツーリング ☐ その他 ☐ キーワード 377

車検 (車) ☐ 修理 (バイク) ☐ 購入 (バイク) ☐ 修理 (車) ☐

379 登録 キャンセル

【図 36】

FIG.36

373

予定 (イベント) 登録

日付 2000 年 7 月 12 日 ~ 年 月 日

タイトル 次女誕生日

予定 (イベント) 関係者 本人 家族のメンバー 他人 性別 男 女 年齢 12 歳

イベント分野 (複数選択可) レジャー 〇 スポーツ 〇 趣味 〇 車・バイク 〇 住居 〇 お祝い 〇 旅行 〇

OK 376

374

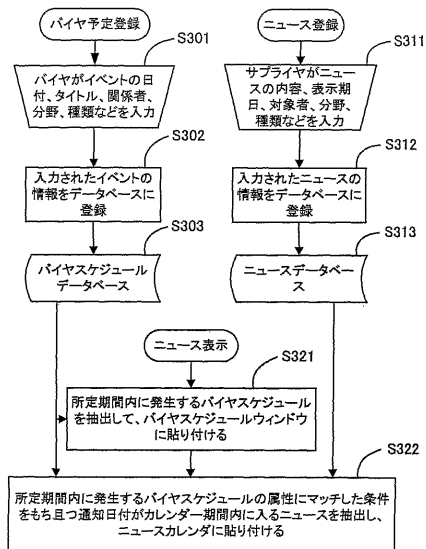
☒ 誕生日 ☐ 出産 ☐ 結婚記念日 ☐ 合格 (高校入試・大学入試) ☐ 入学式 ☐ 卒業式 ☐ その他 ☐ キーワード 377

☐ 合格 (高校入試・大学入試) ☐ 入学式 ☐ 卒業式 ☐ その他 ☐ 結婚 ☐ 引越し

379 登録 キャンセル

【図 37】

FIG.37



フロントページの続き

(51) Int.Cl.⁷

F I

G 0 6 F 17/60 4 3 0

(56) 参考文献 特開平 9 - 7 3 4 9 6 (J P , A)

特開平 1 1 - 3 1 1 7 0 (J P , A)

特開平 1 0 - 1 9 8 8 4 0 (J P , A)

米国特許第 5 9 6 0 4 0 6 (U S , A)

加藤裕志「エレクトロニックコマースの全体像 日米最前線80社のビジネスモデル分析」1999年4月23日, 株式会社アドバンスト・マネジメント, p.69

YakaIm Kathy, 「Money 98 VS Quicken 98」PC Magazine, V17, n4, p103-112[オンライン]1998年2月24日, [取得日2001年6月19日] Dialog オンラインサービス, Accession No.02142339

Stephen Buel 「Get a Web-Organized Life」San Jose Mercury News, Morning Final, Page 1E, [オンライン] 1999年4月5日 [取得日2001年6月19日] Dialog オンラインサービス, Accession No.10095029